

第Ⅲ部 調査結果の詳細

第1章「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」について

1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度（問1）

プランの各施策に関連する事柄について、満足度を5「十分」～1「不十分」の5段階で質問した。

（1）戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略について

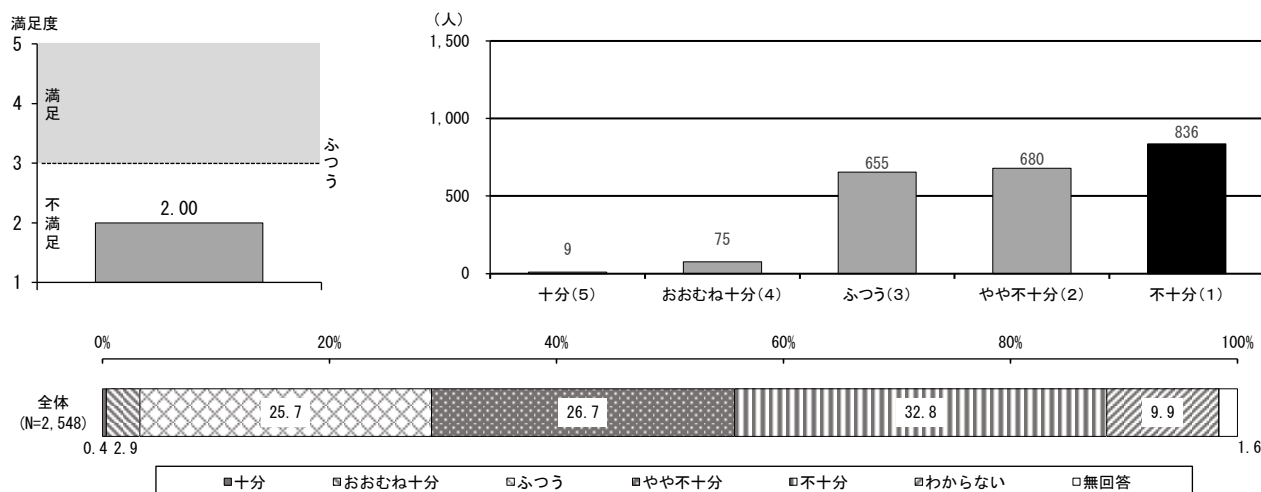
ア 社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保

問1-1 若者にとって魅力的な働く場が確保されている。

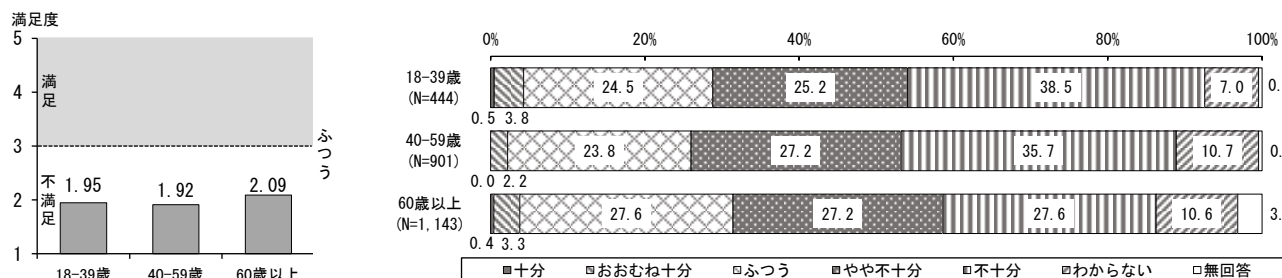
（a）満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.00で、「ふつう」の3より1.00低かった。回答は「不十分」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.3%、「ふつう」は25.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は59.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（以下「不満を感じていない人の割合」）は29.0%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.09で最も高く、不満を感じていない人の割合は31.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は1.92で最も低く、不満を感じていない人の割合は26.0%であった。



(b)「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,516 人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、566 人(37.3%)から回答があった。

回答の一部

- テレワークなどの良い転換を始める企業に補助金を支給するなど新しい働き方がより普及すれば良いと思う。(女性／20 歳代／秋田地域)
- 私は成長分野と呼ばれる現場で勤務しているが、元々の人員不足で人材教育に手が回らないため、離職率が高いと思われる。そのため、企業誘致とか情報教育よりも、人材確保に向けて県全体で人を増やす必要があると思う。(男性／20 歳代／由利地域)
- 会社説明会には大体同じ企業しか集まらないため、採用枠がなくても、こんな会社が秋田にはあるんだということを知らせる場があったら良い。(女性／40 歳代／秋田地域)

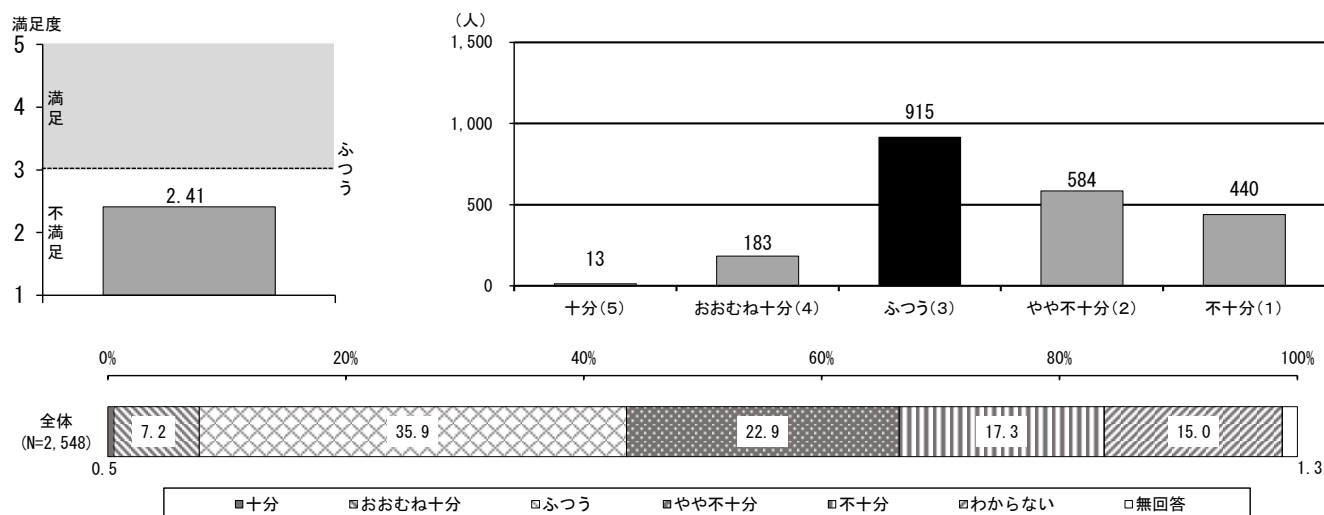
イ 若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり

問 1-2 高校生や大学生の県内就職が進んでいる。

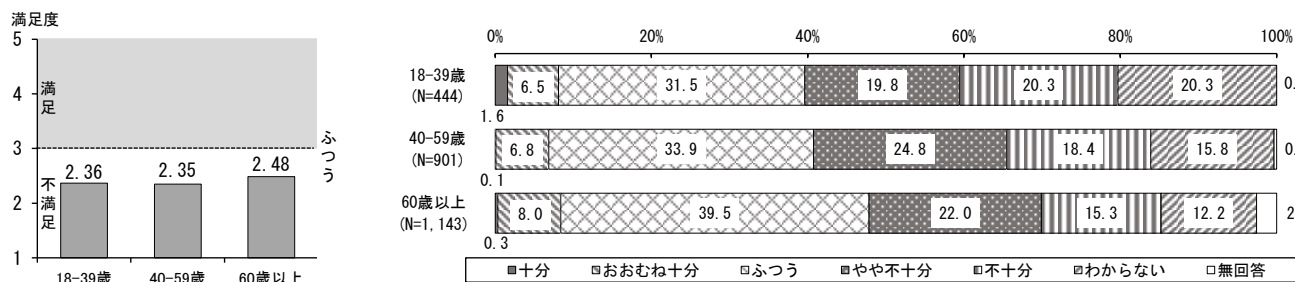
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.41で、「ふつう」の3より0.59低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は7.7%、「ふつう」は35.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は43.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.48で最も高く、不満を感じていない人の割合は47.8%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.35で最も低く、不満を感じていない人の割合は40.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,024人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、296人(28.9%)から回答があった。

回答の一部

- 大学生の県内への就職率が悪いと思う。大学で身に付けた成果を生かす場が県内に少ないように思う。(男性/30歳代/由利地域)
- 県内、地元就職を望んでいる若者は多いと思うが、開示する情報が少ないし、集めている情報そのものが少なすぎる。(女性/60歳代/秋田地域)
- 高校生は進んでいるように感じるが、県外に出た大学生が学んだことを生かせる職場がない。賃金が安く、「今の若者」にあった働き方を推し進める企業も少ない。(女性/40歳代/秋田地域)

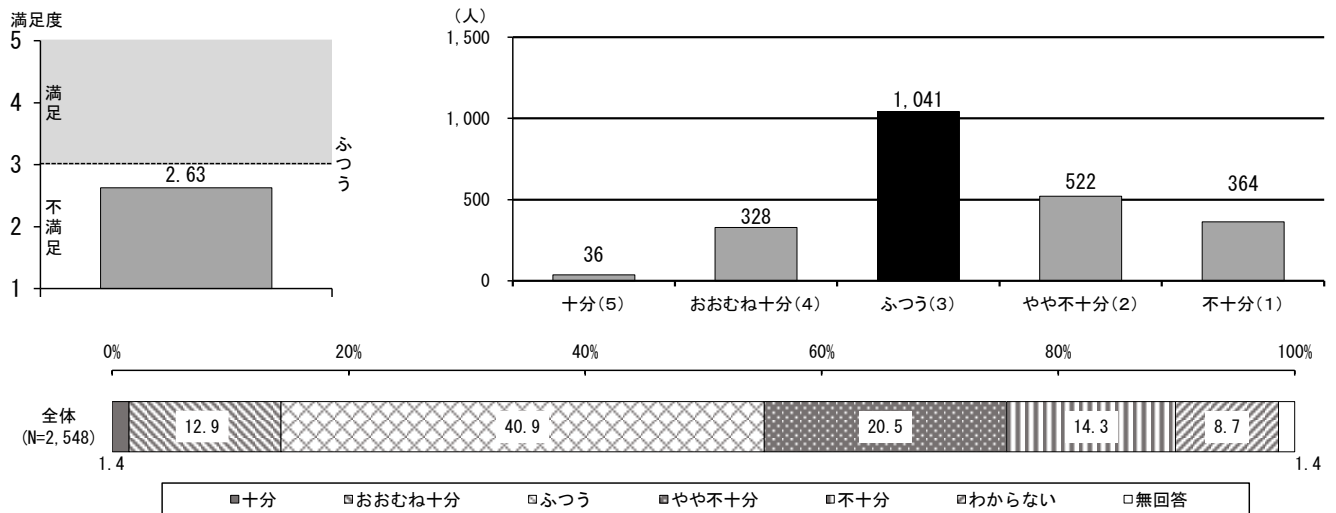
ウ 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート

問 1-3 安心して子育てができる社会になっている。

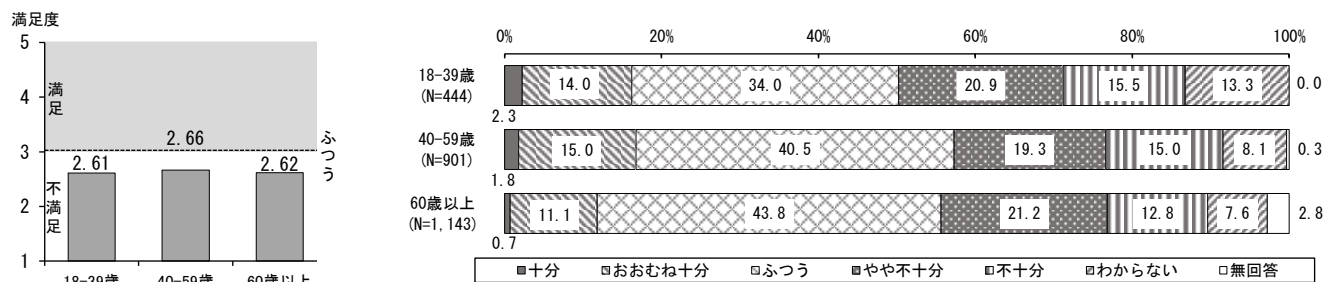
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.63で、「ふつう」の3より0.37低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.3%、「ふつう」は40.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は34.8%であった。また、不満を感じていない人の割合は55.2%であった。



年代別では、「40～59歳」の満足度は2.66で最も高く、不満を感じていない人の割合は57.3%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.61で最も低く、不満を感じていない人の割合は50.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した886人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、269人(30.4%)から回答があった。

回答の一部

- 出生数が減少していることもあり、もっと子育てしやすい、行政の支援がもっと皆に伝えられるような情報提供をしてほしい。(女性/40歳代/秋田地域)
- 秋田県内で子育てをした場合に掛かる費用を公表してほしい。成人までどのくらい掛かるのか目安があれば人生設計がもう少し楽になると思う。(男性/20歳代/仙北地域)
- 各種手当てに対する所得制限、安心して預けられる場所(保育園や学童保育)と預けられる時間、24時間頼れる医療機関など、もっと子育て世代のニーズとマッチングさせるような政策が必要なのではないでしょうか。(男性/40歳代/仙北地域)

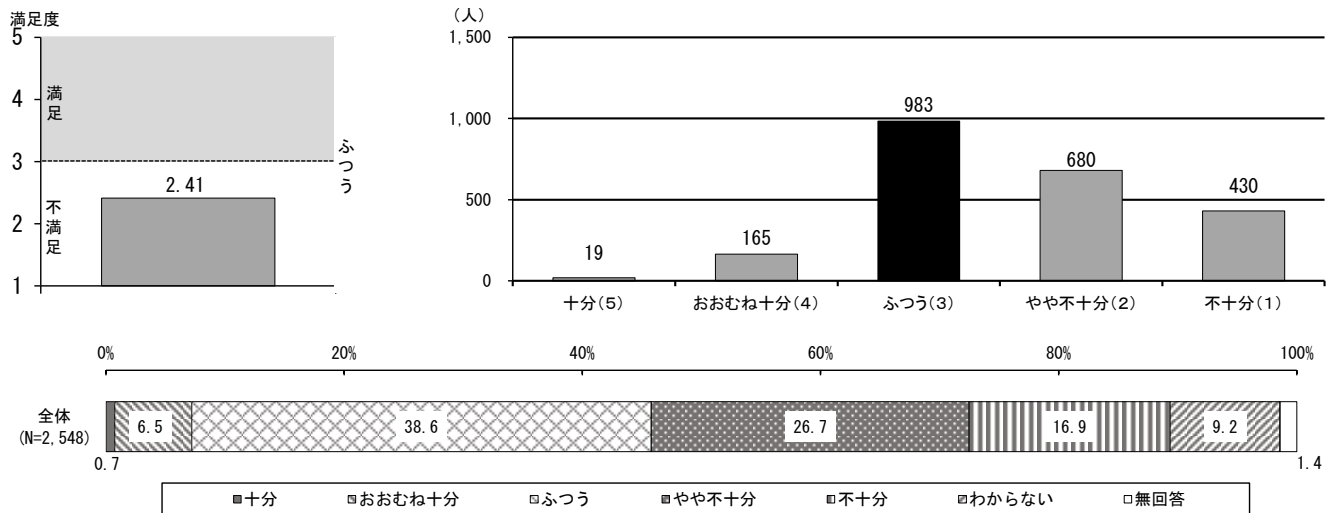
エ 女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現

問 1-4 女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。

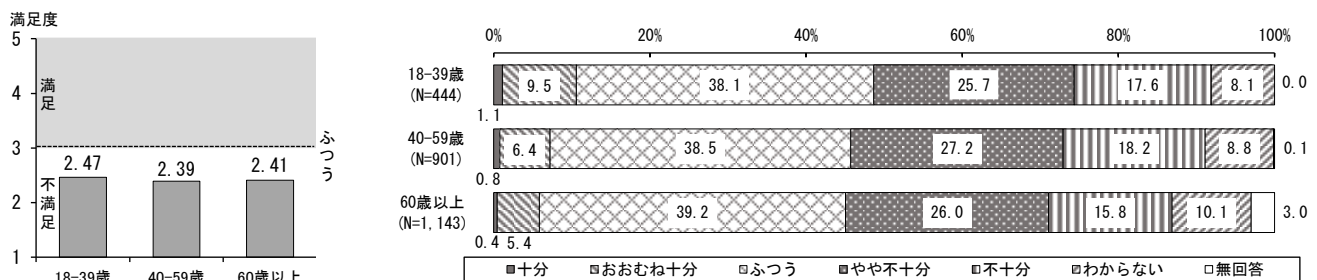
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.41で、「ふつう」の3より0.59低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は7.2%、「ふつう」は38.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は43.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は45.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.47で最も高く、不満を感じていない人の割合は48.7%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.39で最も低く、不満を感じていない人の割合は45.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,110人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、288人(25.9%)から回答があった。

回答の一部

- 全国や首都圏に比べ、女性や若者が前に出にくい文化であり、社会全体の価値観が遅れているほか、柔軟性に欠けている。結局、そのことが人口の流出につながっている。(女性/40歳代/雄勝地域)
- 出産・育児と平行している若いママに対して冷たい対応の職場が多いと思う。マタハラ等もある。結婚に魅力を感じないとの声が多い。(女性/50歳代/秋田地域)
- 昔ながらの男尊女卑的な考えが強く残っていて、女性の職場での立場や給与等の待遇面は向上していない。年功序列的な考えもまだ強く残っており、若者に対しても、実力や仕事内容に対して、適切な給与や待遇が提供されているとは思えない。(女性/50歳代/由利地域)

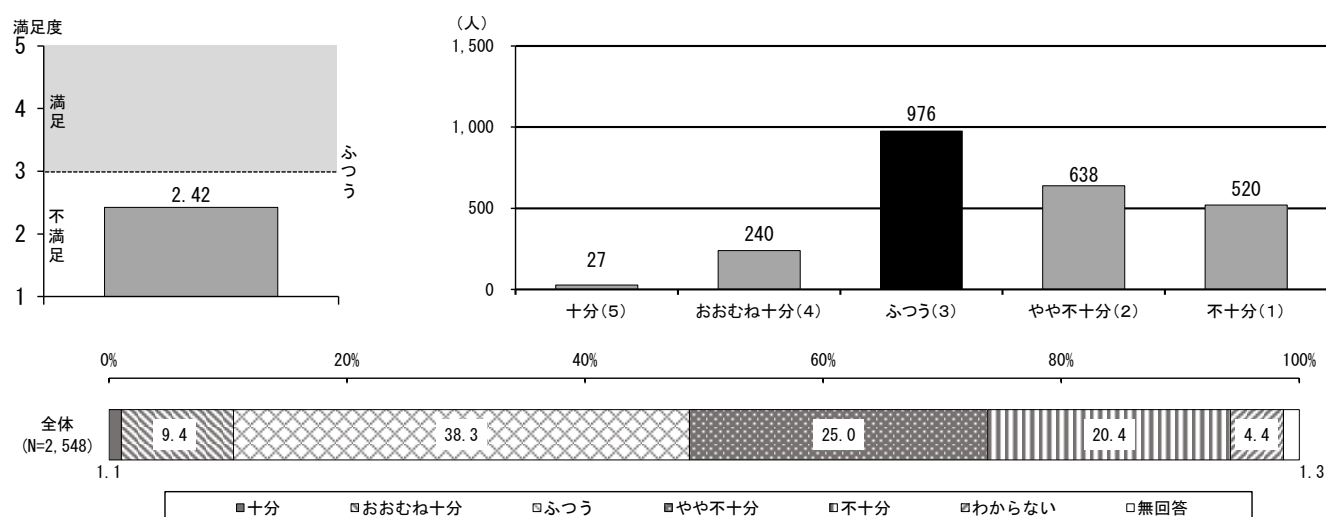
オ 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり

問 1-5 地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。

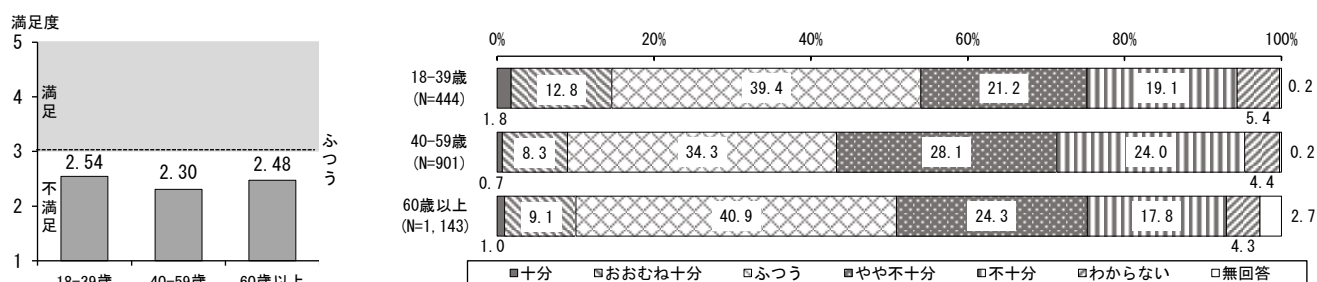
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.42で、「ふつう」の3より0.58低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は10.5%、「ふつう」は38.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は45.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は48.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.54で最も高く、不満を感じていない人の割合は54.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.30で最も低く、不満を感じていない人の割合は43.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,158人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、426人(36.8%)から回答があった。

回答の一部

- 私の住んでいる地域ではバスが廃止になり買物も不便です。高校生を送迎できない世帯では入学先を選ぶのもとても大変な思いをしています。(女性/60歳代/平鹿地域)
- 公共交通機関が縮小されていて不便である。地域単位でも高齢者を乗せてもらえる新しいシステムが必要と思われる。(男性/50歳代/秋田地域)
- 近所の高齢者世帯は、買い物や病院に行くにも苦慮している。サービスの有無も含めて情報が乏しい。(男性/60歳代/雄勝地域)

(2) 戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略について

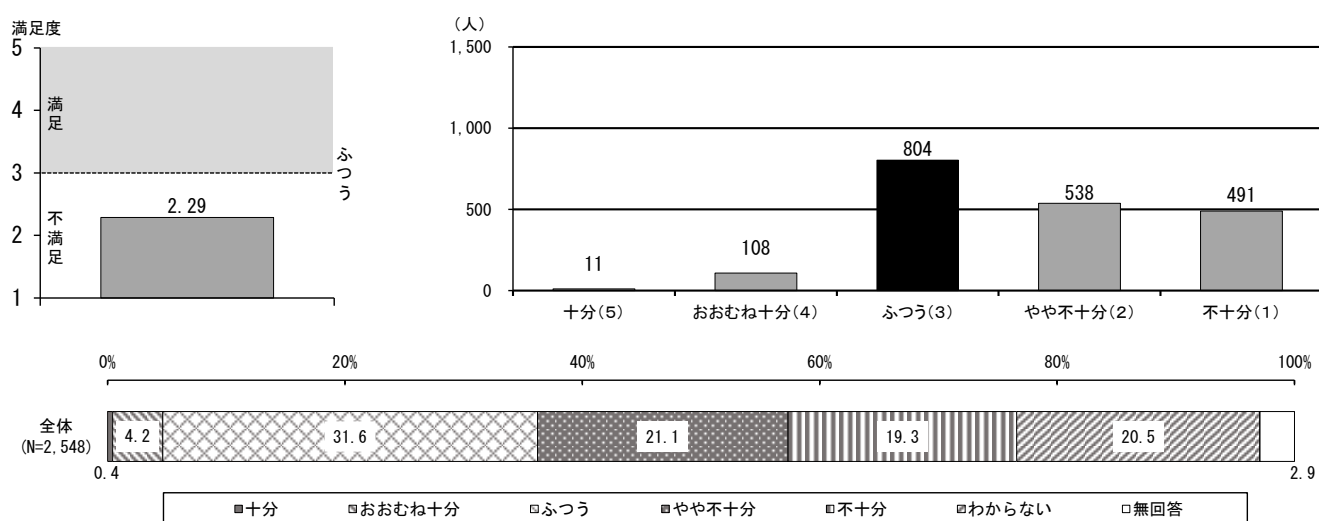
ア 成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成

問 1-6 地域経済を^{けん}牽引することができる競争力を持った企業が増えている。

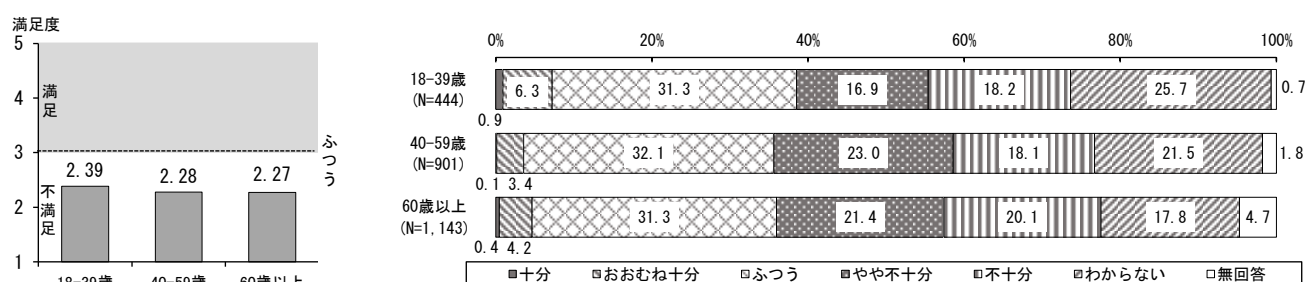
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.29で、「ふつう」の3より0.71低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は4.6%、「ふつう」は31.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は36.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.39で最も高く、不満を感じていない人の割合は38.5%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.27で最も低く、不満を感じていない人の割合は35.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,029人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、235人(22.8%)から回答があった。

回答の一部

- 企業の活躍の状況を知る機会がないため評価が低くなってしまっている。もっと情報発信がほしい。(女性/70歳以上/秋田地域)
- 競争力がある企業は一部の企業で、全体的には少ないと感じている。(男性/60歳代/仙北地域)
- 企業同士の競争は大きい都市の企業ではあるが、田舎の企業にはできないと思う。自分の会社を維持するので精一杯なように思える。(女性/60歳代/鹿角地域)

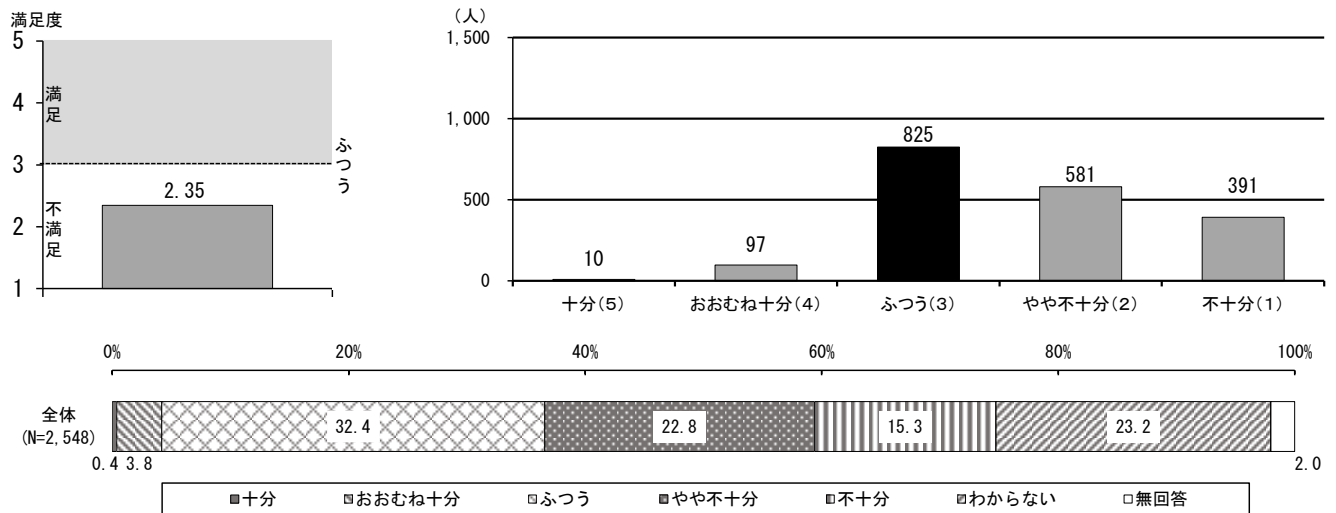
イ 中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上

問 1-7 中小企業の安定した経営が確保されている。

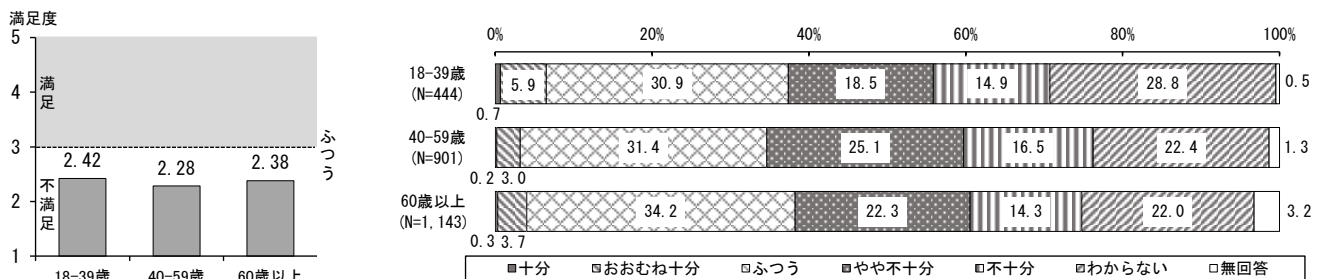
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.35で、「ふつう」の3より0.65低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は4.2%、「ふつう」は32.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は38.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は36.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.42で最も高く、不満を感じていない人の割合は37.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.28で最も低く、不満を感じていない人の割合は34.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した972人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、156人(16.0%)から回答があった。

回答の一部

- 経営力の弱い中小企業にとって長引くコロナ禍においてのダメージは大きい。一過性の助成や支援では根本的な解決になっていないと感じる。(女性/30歳代/由利地域)
- 中小企業は後継者問題が大きいので、倒産に追い込まれるところが多い。私の住んでいるところでも何年も続いている老舗が倒産している。何か手立てを考えてほしい。(女性/60歳代/鹿角地域)
- 若者の県外流出や、大企業の求人数増加により、安定した従業員の確保ができず、後継者不足にもつながり、事業継続が成り立たない状態が増加していると感じる。個々の中小企業の継続に対するサポートだけでは、継続はできても経営力強化にはつながらない場合が多く、統廃合による再編成も視野に入れた、強力な経営力の強化サポートが必要。(女性/50歳代/由利地域)

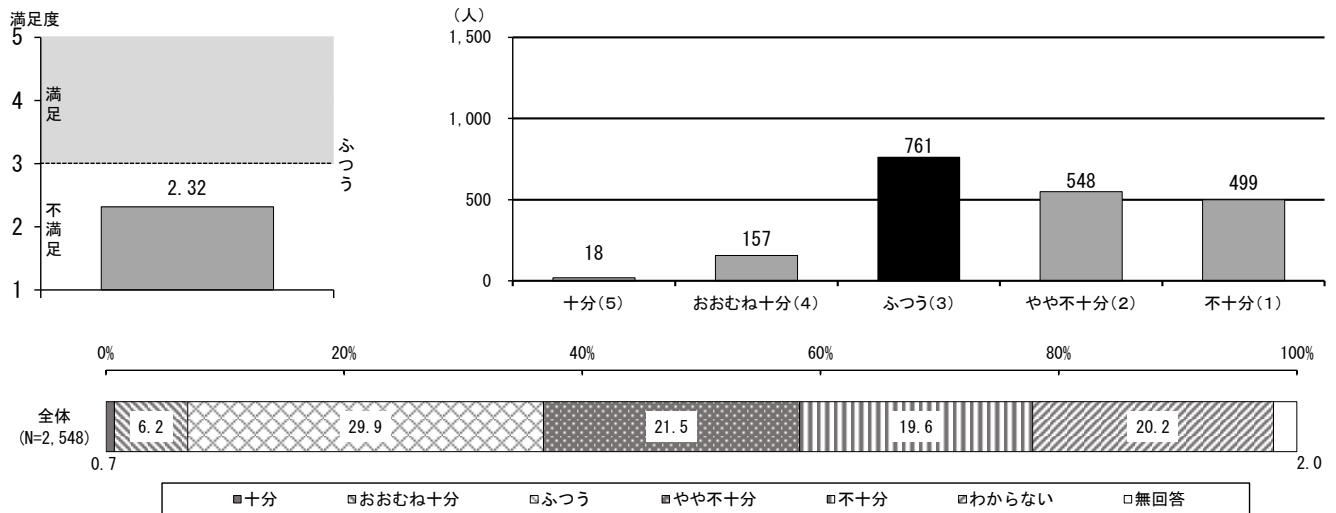
ウ 国内外の成長市場の取り込みと投資の促進

問 1-8 企業誘致が進んでいる。

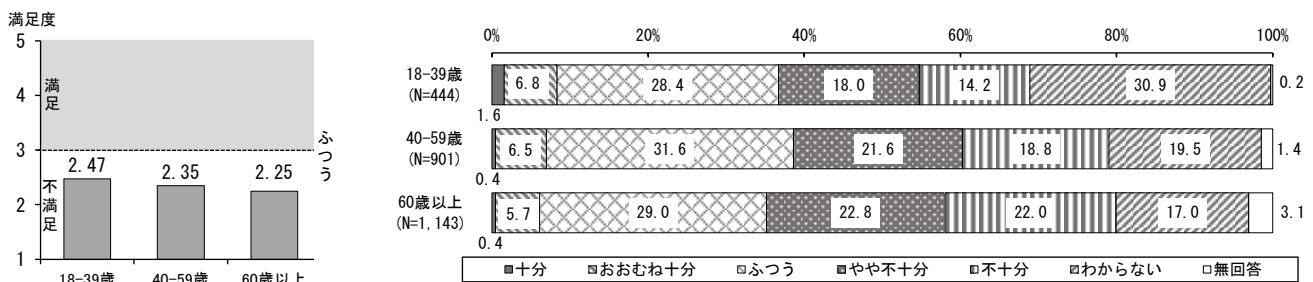
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.32で、「ふつう」の3より0.68低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.9%、「ふつう」は29.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は41.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は36.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.47で最も高く、不満を感じていない人の割合は36.8%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.25で最も低く、不満を感じていない人の割合は35.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,047人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、212人(20.2%)から回答があった。

回答の一部

- 誘致を進めていると思うが、若者の受け皿になっているとは思わない。(男性/30歳代/由利地域)
- 企業誘致はそれなりに進んでいるが、誘致する企業の職業に偏りがある感じがする。(男性/70歳以上/平鹿地域)
- 再生可能エネルギー等の分野のこれからを支援する体制整備が必要だと思います。(男性/50歳代/山本地域)

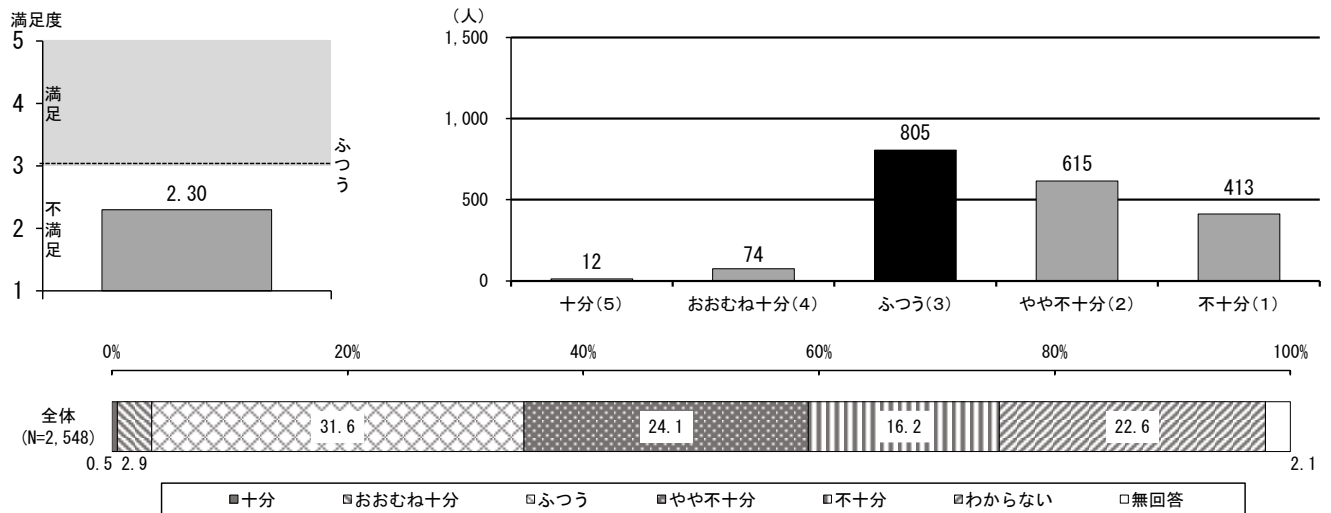
エ 産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備

問 1-9 産業人材の確保・育成が進んでいる。

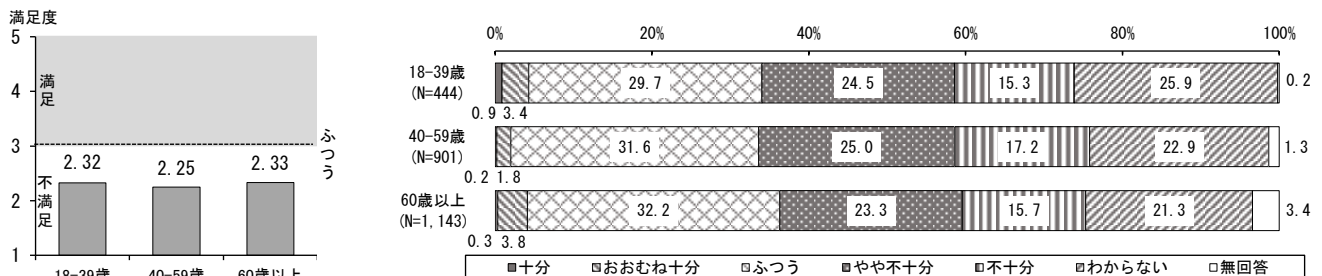
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.30で、「ふつう」の3より0.70低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.4%、「ふつう」は31.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.3%であった。また、不満を感じていない人の割合は35.0%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.33で最も高く、不満を感じていない人の割合は36.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.25で最も低く、不満を感じていない人の割合は33.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,028人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、164人(16.0%)から回答があった。

回答の一部

- 若い人達の起業に向け、セミナー受講など勉強できる機会がもっとあったら良いと思う。(女性/60歳代/山本地域)
- 若者が意欲的に働くことができる給与体系を企業に義務付けるような雰囲気づくりが必要。(男性/50歳代/仙北地域)
- 高校生、大学生の時から研修やインターンシップなどで、県内産業人材の育成を進めるべきだと思う。(男性/20歳代/秋田地域)

(3) 戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略について

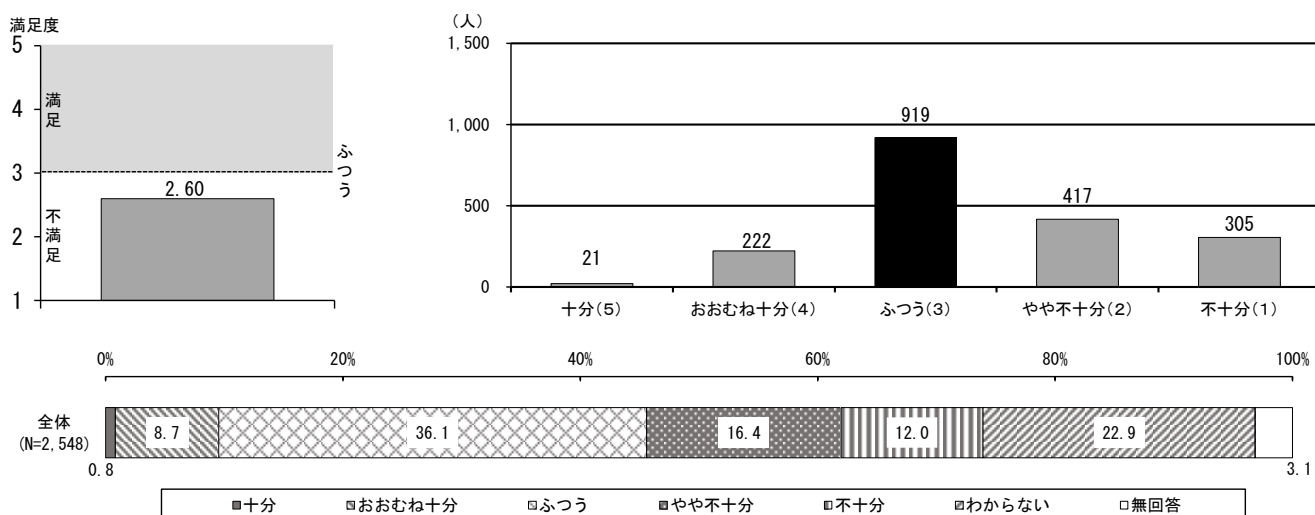
ア 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

問 1-10 農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。

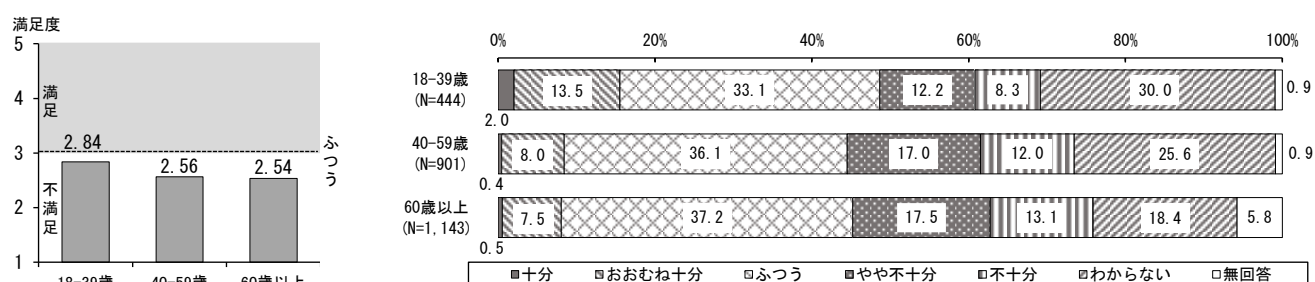
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.60で、「ふつう」の3より0.40低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.5%、「ふつう」は36.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は45.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.84で最も高く、不満を感じていない人の割合は48.6%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.54で最も低く、不満を感じていない人の割合は45.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した722人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、221人(30.6%)から回答があった。

回答の一部

- 興味関心がある人が農業などを始められるきっかけを作るため、情報発信を工夫してほしい。(女性/50歳代/秋田地域)
- 最近では、若い漁師の方がサーモンの養殖に取り組み、初年度完売のニュースを見ました。こういうことをサポートしていくことで、新たな分野への取組が広がると思います。また、こういうことを取り上げることで、その仕事の内容や魅力を知るきっかけにもなります。(女性/40歳代/秋田地域)
- 若者の担い手を増やすため、農業、林業の機械化やAIによる自動化を進めるべき。(男性/40歳代/北秋田地域)

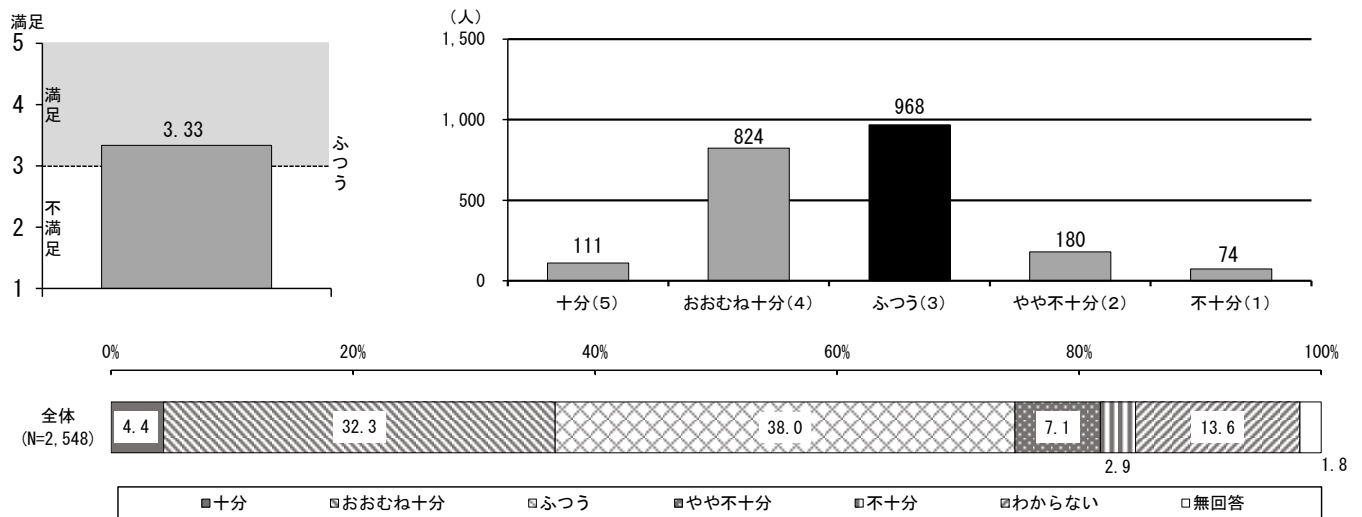
イ 複合型生産構造への転換の加速化

問 1-11 えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。

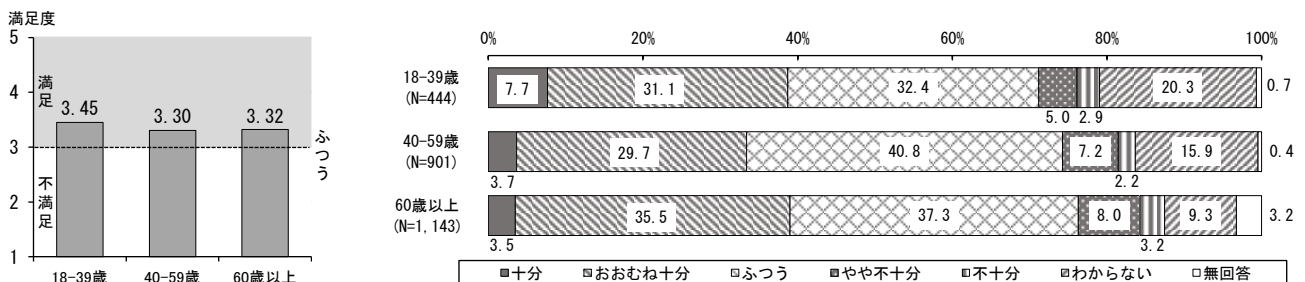
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.33で、「ふつう」の3より0.33高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は36.7%、「ふつう」は38.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は10.0%であった。また、不満を感じていない人の割合は74.7%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度は3.45で最も高く、不満を感じていない人の割合は71.2%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は3.30で最も低く、不満を感じていない人の割合は74.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 254 人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、69 人(27.2%)から回答があった。

回答の一部

- 秋田牛などはよく目にするようになったと感じるが、実際は手が届かない。野菜はおいしいし、今後に期待。(女性/30 歳代/仙北地域)
- 良い取組もたくさんあるが、秋田県の強みである農業をもっともっと支援して、日本、世界に必要とされるものにしてほしい。(男性/30 歳代/北秋田地域)
- しいたけ、菊を売りにしていることを今知った。広報にも力を入れてほしい。(女性/20 歳代/秋田地域)

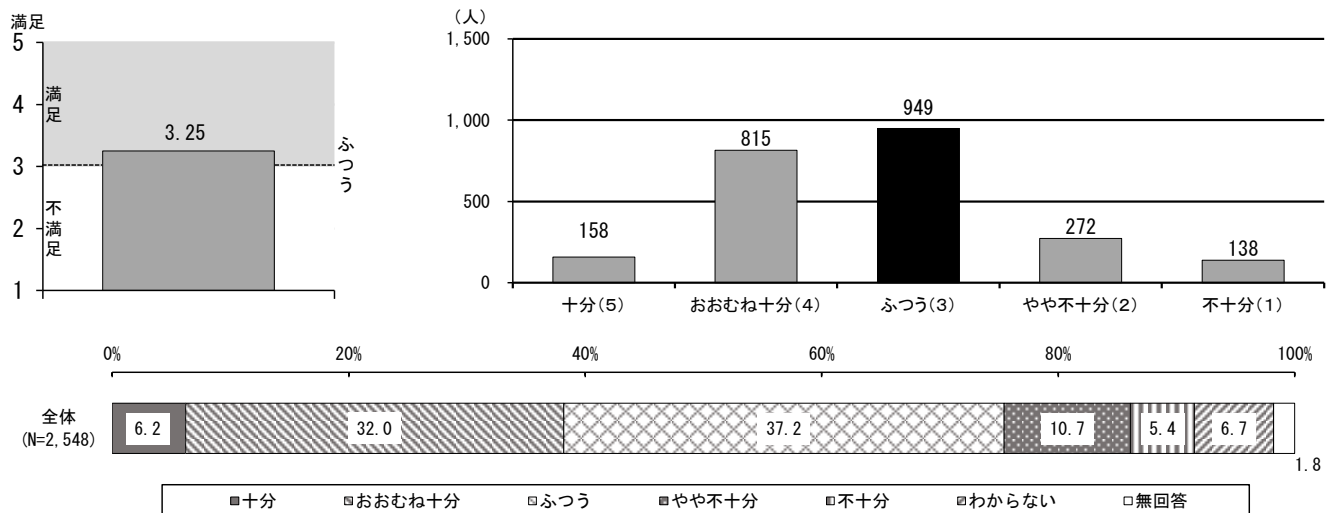
ウ 秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用

問 1-12 あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。

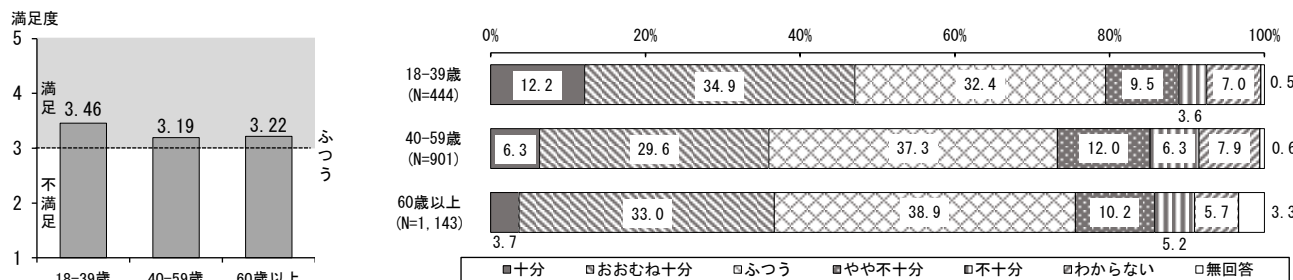
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.25で、「ふつう」の3より0.25高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は38.2%、「ふつう」は37.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は75.4%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.46で最も高く、不満を感じていない人の割合は79.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.19で最も低く、不満を感じていない人の割合は73.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した410人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、150人(36.6%)から回答があった。

回答の一部

- サキホコレが近年出ているが、まだ口にしたことがない。今後に期待。小学校の給食に出たりしたのは、教育・食育にも良いと思った。(女性/30歳代/仙北地域)
- 米どころの秋田を維持するためにも、ブランド米の安定確保が所得向上につながると思う。サキホコレの今後のPR、品質確保を祈りたい。(男性/60歳代/平鹿地域)
- お米は他県に負けないはずなのに、セールスが足りなさすぎる。他県の人を雇用するなどしてアドバイスをいただくべき。(女性/60歳代/秋田地域)

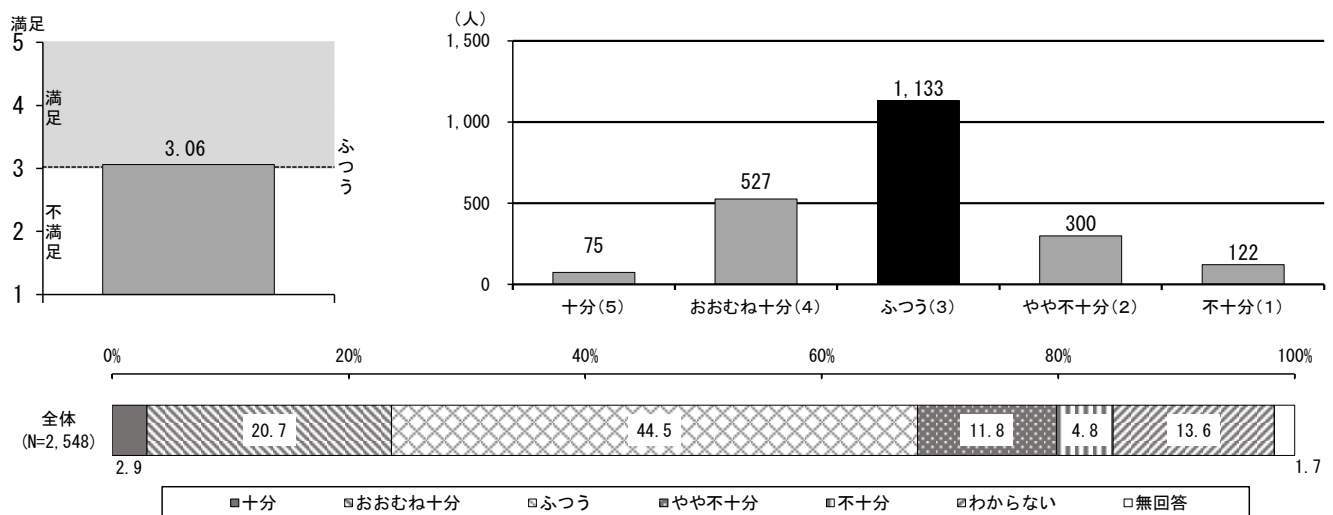
エ 農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化

問 1-13 飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。

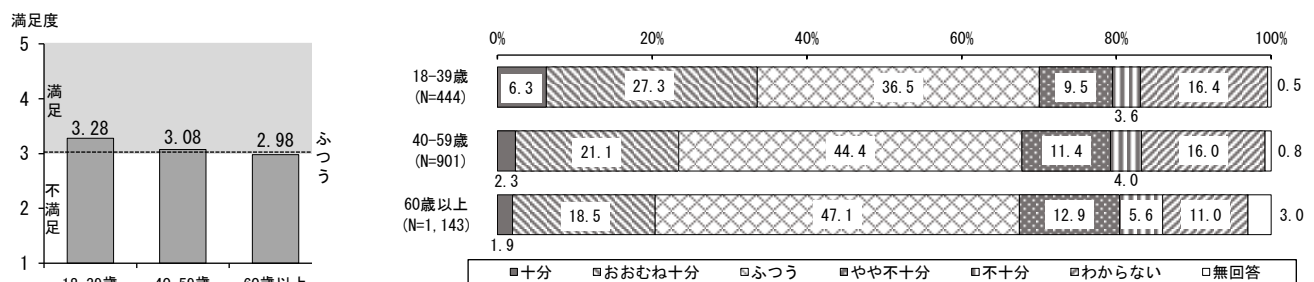
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.06で、「ふつう」の3より0.06高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は23.6%、「ふつう」は44.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は68.1%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.28で最も高く、不満を感じていない人の割合は70.1%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.98で最も低く、不満を感じていない人の割合は67.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した422人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、89人(21.1%)から回答があった。

回答の一部

- いぶりがっこの生産や販売が盛んだが、生産に規制が入るそうなので今後が心配。(女性/50歳代/北秋田地域)
- いろんな地域で特色のある美味しい加工品があるのに、販売促進がうまくないと感じている。(男性/60歳代/平鹿地域)
- 農林水産物の高付加価値化とマーケティング力向上に取り組んでいただきたい。(男性/20歳代/秋田地域)

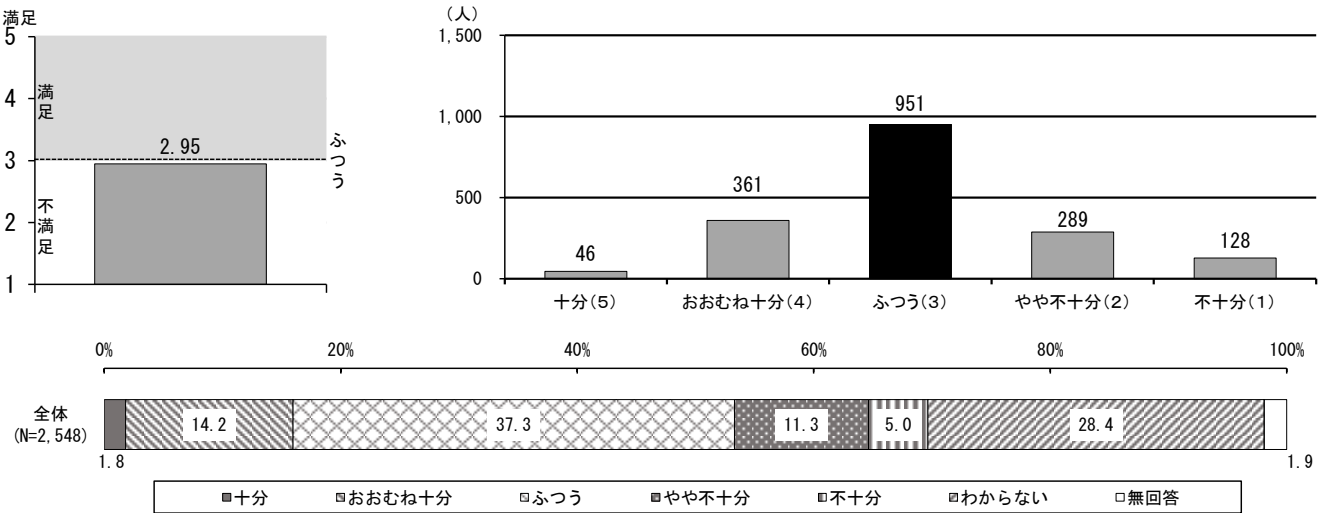
オ 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化

問 1-14 秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。

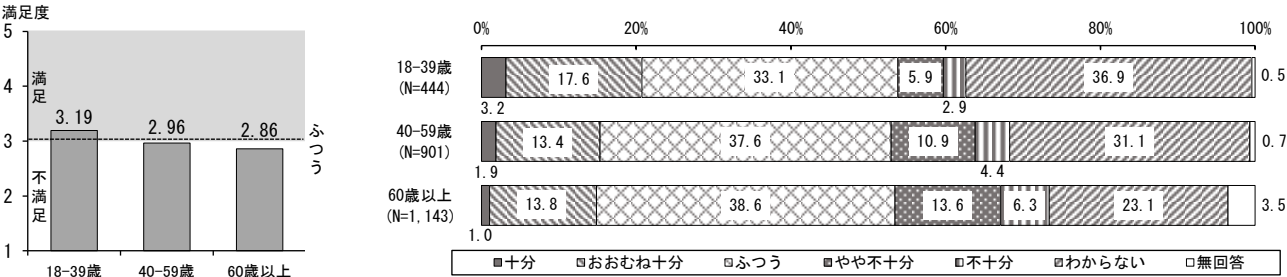
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.95で、「ふつう」の3より0.05低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.0%、「ふつう」は37.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.3%であった。また、不満を感じていない人の割合は53.3%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度は3.19で最も高く、不満を感じていない人の割合は53.9%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は2.86で最も低く、不満を感じていない人の割合は53.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した417人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、82人(19.7%)から回答があった。

回答の一部

- 伐期適齢を迎えているので生産量増大は当たり前である。再造林率の低さによる杉の枯渇問題を解消しなければ、秋田のブランドが一つ減り大打撃になる。(男性/30歳代/由利地域)
- 実際どれほど使われているのか把握していません。素晴らしい木材があり多く生産しているのであれば、もっとPRして県内外に発信してもらいたいです。(男性/40歳代/雄勝地域)
- 新設の建物など、いろいろな場所で見かけることが多くなりました。とても素晴らしいものだと思うので、さらに生産、利用を拡大してほしいです。(女性/40歳代/秋田地域)

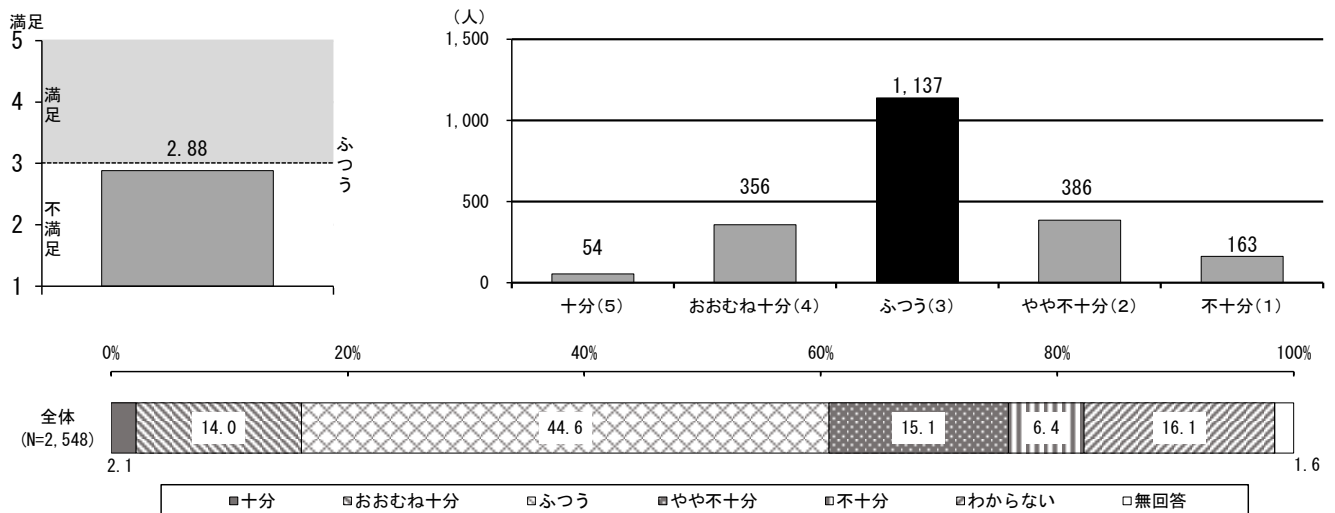
カ つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興

問 1-15 ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。

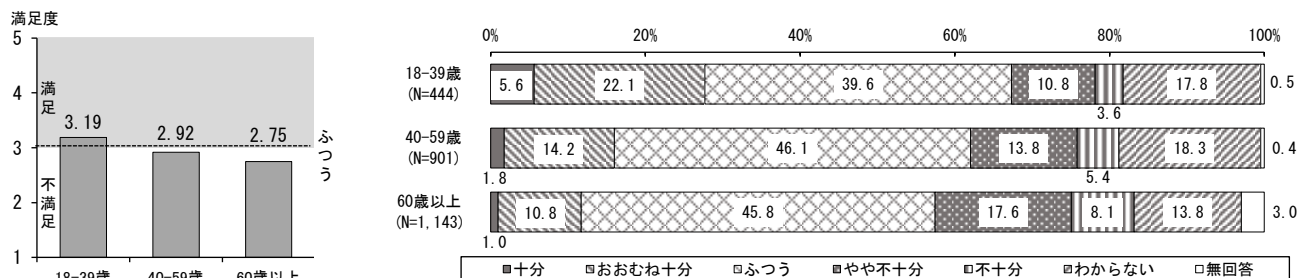
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.88で、「ふつう」の3より0.12低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.1%、「ふつう」は44.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は21.5%であった。また、不満を感じていない人の割合は60.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.19で最も高く、不満を感じていない人の割合は67.3%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.75で最も低く、不満を感じていない人の割合は57.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した549人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、128人(23.3%)から回答があった。

回答の一部

- ハタハタの漁獲量激減には大変心配している。漁業資源の健全育成には是非力を入れてほしい。(男性/40歳代/秋田地域)
- 秋田のマダイは本当に美味しいので、もっと広く告知したほうが良いと思う。観光客を呼べる大きな魅力を秘めていると思う。(男性/40歳代/秋田地域)
- 気候変動による海水温上昇に伴う生息域の変化や従事者の減少等を見越した長期的な漁業の展望が必要ではないでしょうか。(男性/40歳代/北秋田地域)

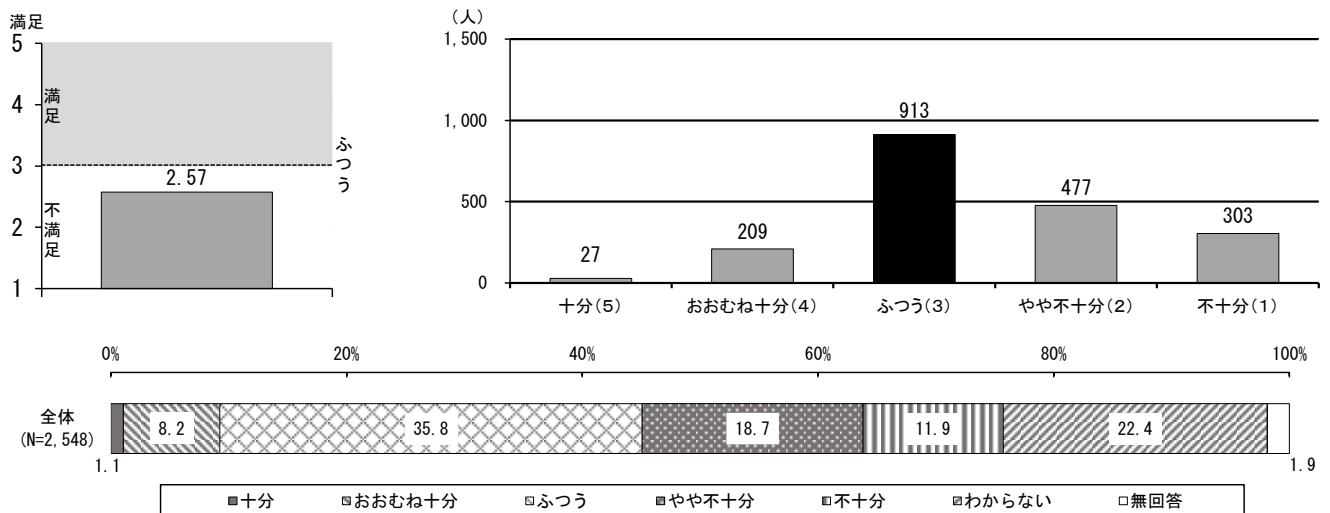
キ 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

問 1-16 豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。

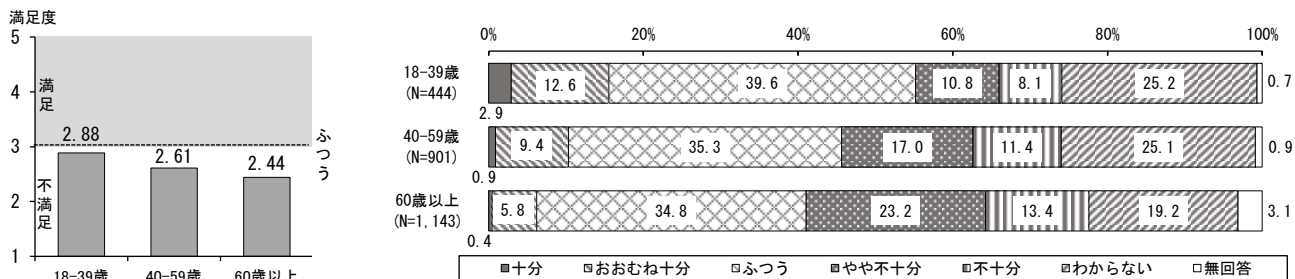
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.57で、「ふつう」の3より0.43低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.3%、「ふつう」は35.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は30.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は45.1%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.88で最も高く、不満を感じていない人の割合は55.1%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.44で最も低く、不満を感じていない人の割合は41.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した780人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、186人(23.8%)から回答があった。

回答の一部

- 農家の後継者問題などに対して、もっと農山漁村の魅力を伝えていく情報を発信してほしい。(女性/40歳代/秋田地域)
- 農林業に魅力がなく村に後継者がいなくなり、老人社会が進んでいる。早急に改善を要する。(男性/70歳以上/由利地域)
- 農地や森林を守る必要があると同時に、集落の拠点化を図り、ライフライン維持に要するコストを下げなければ、広大な秋田県で持続可能な生活環境維持は困難です。(男性/50歳代/山本地域)

(4) 戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略について

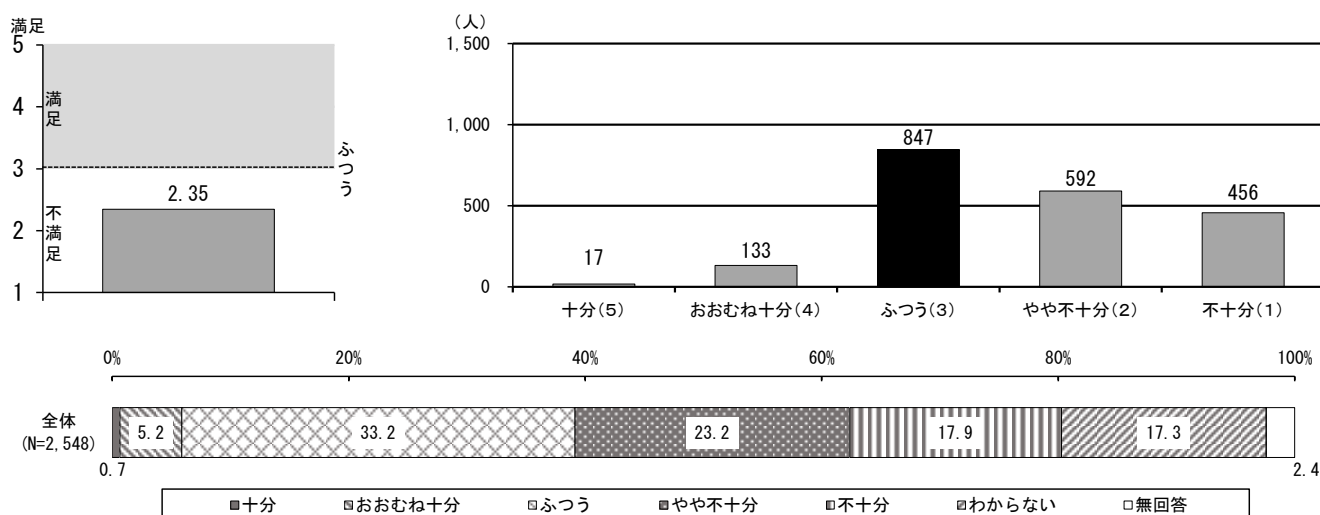
ア 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

問 1-17 国内外から観光誘客が進んでいる。

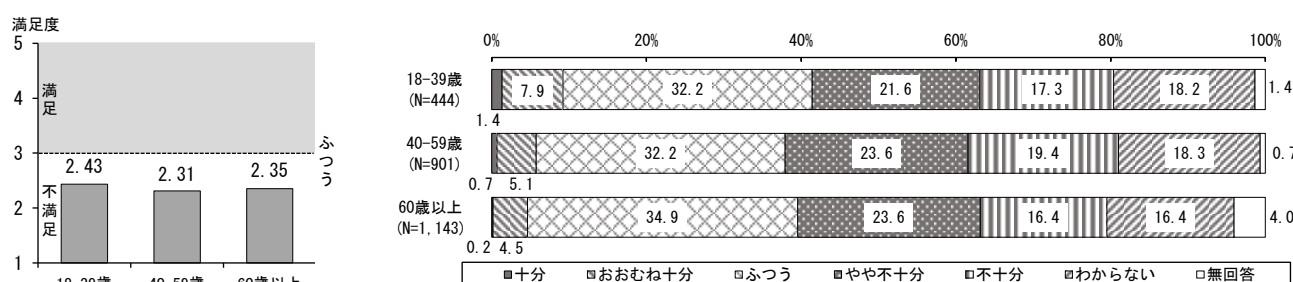
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.35で、「ふつう」の3より0.65低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は5.9%、「ふつう」は33.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は41.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は39.1%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.43で最も高く、不満を感じていない人の割合は41.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.31で最も低く、不満を感じていない人の割合は38.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,048人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、265人(25.3%)から回答があった。

回答の一部

- 有名ではないが、県民の一部だけが知っている秘境のような観光地はたくさんあり、それをもっとアピールすれば違う視点から魅力に思い、訪れる観光客は必ず増えると思う。(女性/60歳代/秋田地域)
- 最近では、秋田犬の展示、ドラゴンアイ等をニュースで見ましたが、複数の魅力的な観光コンテンツを併せた目的がないと、なかなか難しいのではないかと思います。(女性/40歳代/秋田地域)
- ワークーションなどの推進には課題が多く、魅力の向上とプロモーションを上手く行う方法について学ぶ必要がある。(男性/20歳代/秋田地域)

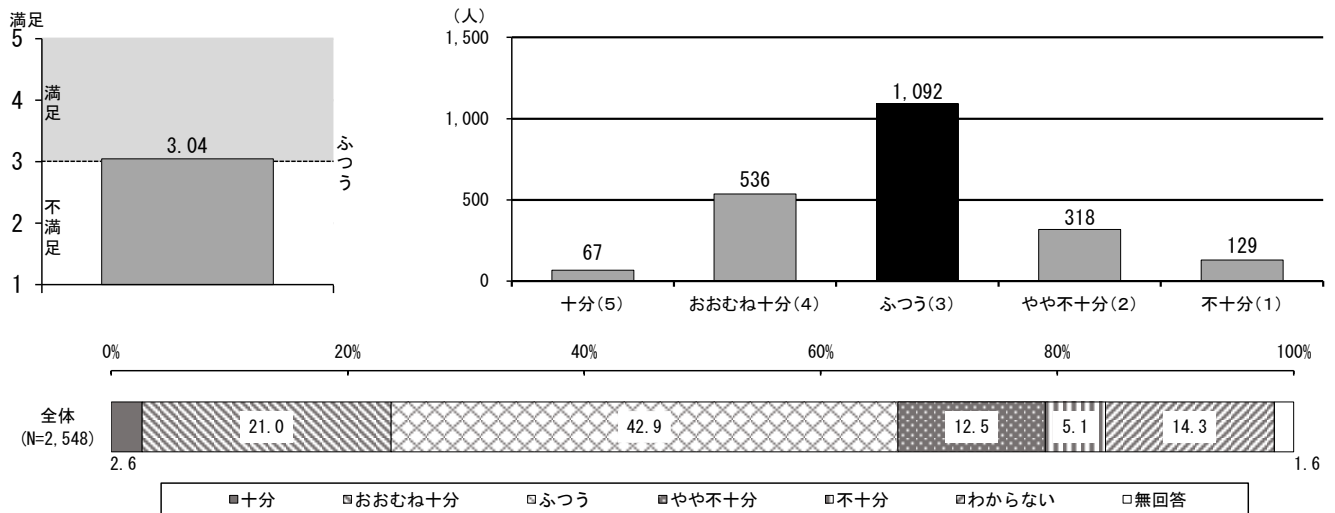
イ 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

問 1-18 日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。

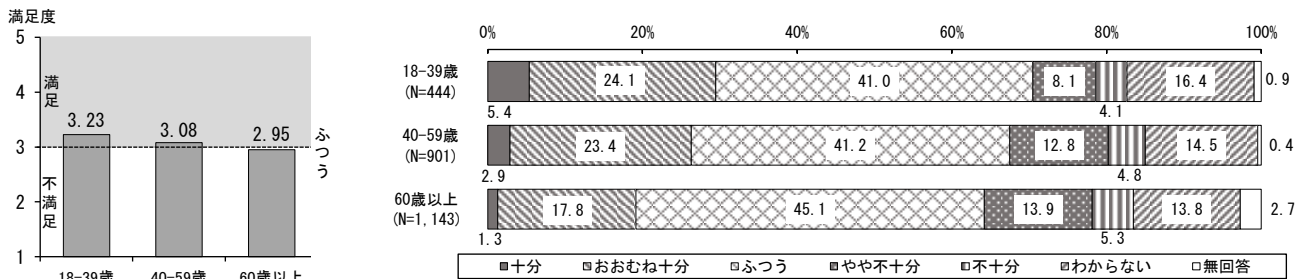
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.04で、「ふつう」の3より0.04高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は23.6%、「ふつう」は42.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は17.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は66.5%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.23で最も高く、不満を感じていない人の割合は70.5%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.95で最も低く、不満を感じていない人の割合は64.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した447人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、71人(15.9%)から回答があった。

回答の一部

- 日本酒・発酵食品は秋田の自慢であり、誇れる商品が多いので、もっと流通してほしい。(女性/40歳代/山本地域)
- 酒蔵の数も多く、日本酒は必ず他県の人に美味しいと言われるが、その存在を知らない人が多く、もったいなく感じる。全国へ多少はPRされているが、これまでにないアプローチをしてほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- 良い商品は多いと思いますが、パッケージや売り方にもっと力を入れたほうがいいと思う。県内にも優れたデザイナーやクリエイター、作家がたくさんいるので、すぐに県外に依頼したりお金を払うのではなく、秋田県内のチームワークで物販を目指したほうがいいと思う。(男性/40歳代/秋田地域)

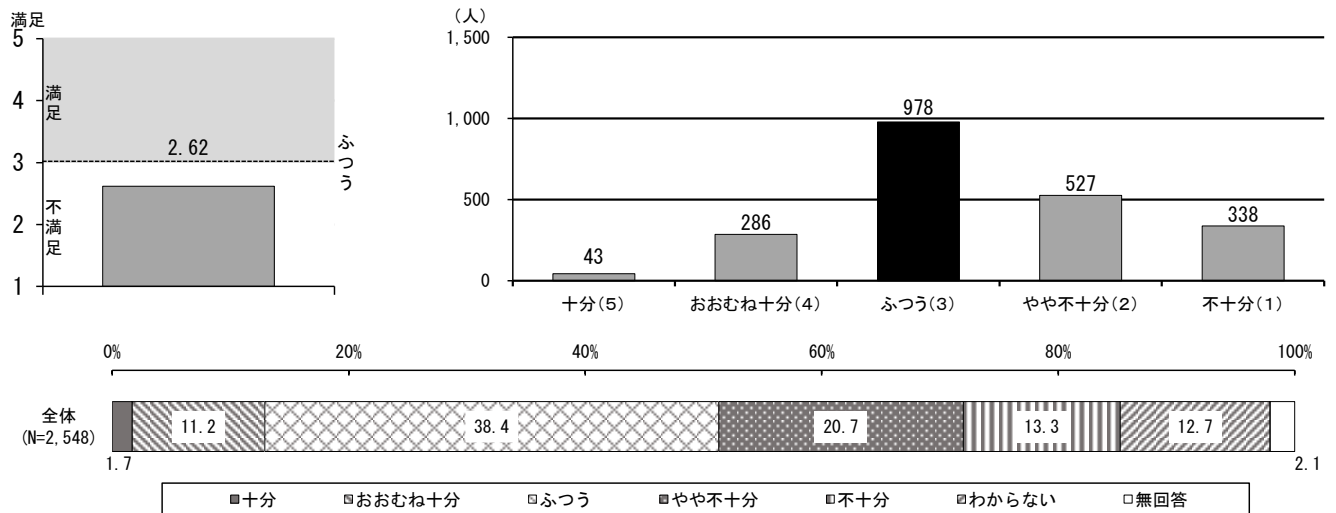
ウ 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

問 1-19 国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。

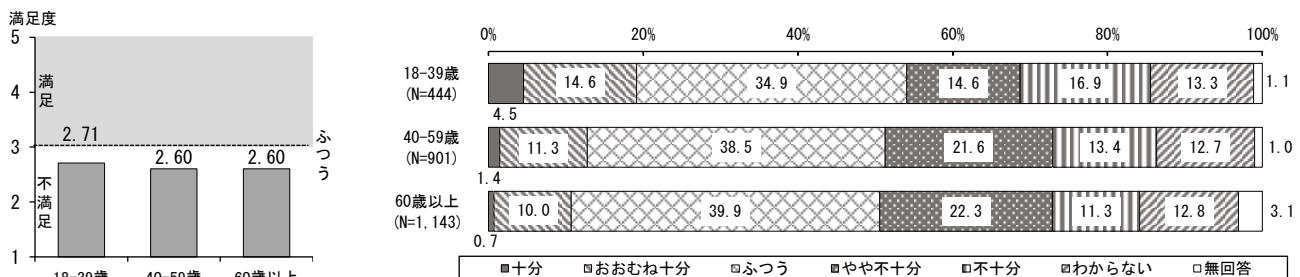
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.62で、「ふつう」の3より0.38低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.9%、「ふつう」は38.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は34.0%であった。また、不満を感じていない人の割合は51.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.71で最も高く、不満を感じていない人の割合は54.0%であった。一方、「40～59歳」と「60歳以上」の満足度はともに2.60で、不満を感じていない人の割合はそれぞれ51.2%、50.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した865人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、168人(19.4%)から回答があった。

回答の一部

- 地域の伝統芸能などは、国外の人はめずらしいと思うのでアピールしてほしい。外国人向けに、里山や伝統芸能のツアーを旅行会社に企画してもらい、宿泊させてはどうか。(男性/70歳以上/山本地域)
- 秋田に住んでいても、かまくら、なまはげといった全国的なものしか分からないので、まずは県内の人に知られていない部分をアピールするべき。(女性/60歳代/平鹿地域)
- 県内の文化は魅力がたくさんあると思う。しかし、それを県外に発信することが下手なように感じる。(男性/40歳代/由利地域)

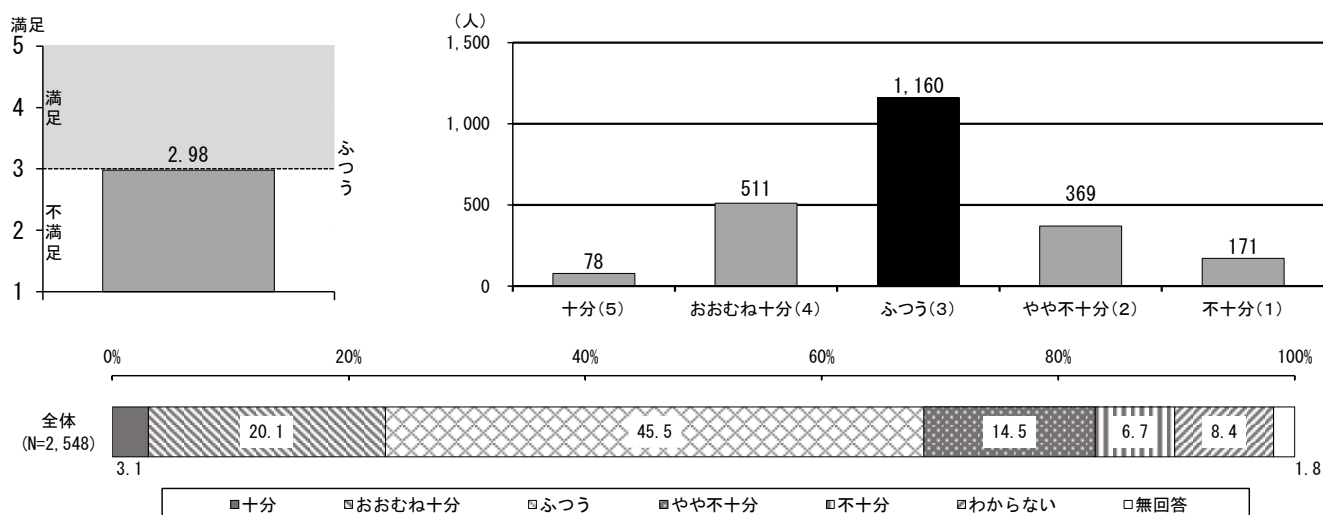
エ 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

問 1-20 スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。

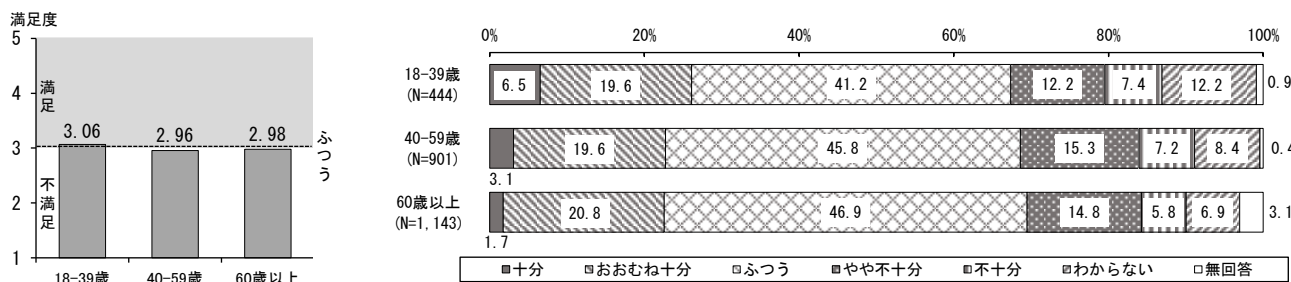
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.98で、「ふつう」の3より0.02低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は23.2%、「ふつう」は45.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は21.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は68.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.06で最も高く、不満を感じていない人の割合は67.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.96で最も低く、不満を感じていない人の割合は68.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した540人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、97人(18.0%)から回答があった。

回答の一部

- スポーツ特区を設けるなど工夫を。高校スポーツは各校に任せすぎ、山形県のように戦略的にしてほしい。(男性/40歳代/秋田地域)
- バスケ、サッカーのプロスポーツはがんばっているように思うが、地域の活性化においては、秋田市以外はほとんど感じ取れない。(男性/50歳代/雄勝地域)
- 小・中学校のスポ少や部活動では、指導者の確保や指導者のスキルによって地域格差がある。仕方ないと思うが、能力のある生徒児童が埋もれていくと考える。(女性/50歳代/鹿角地域)

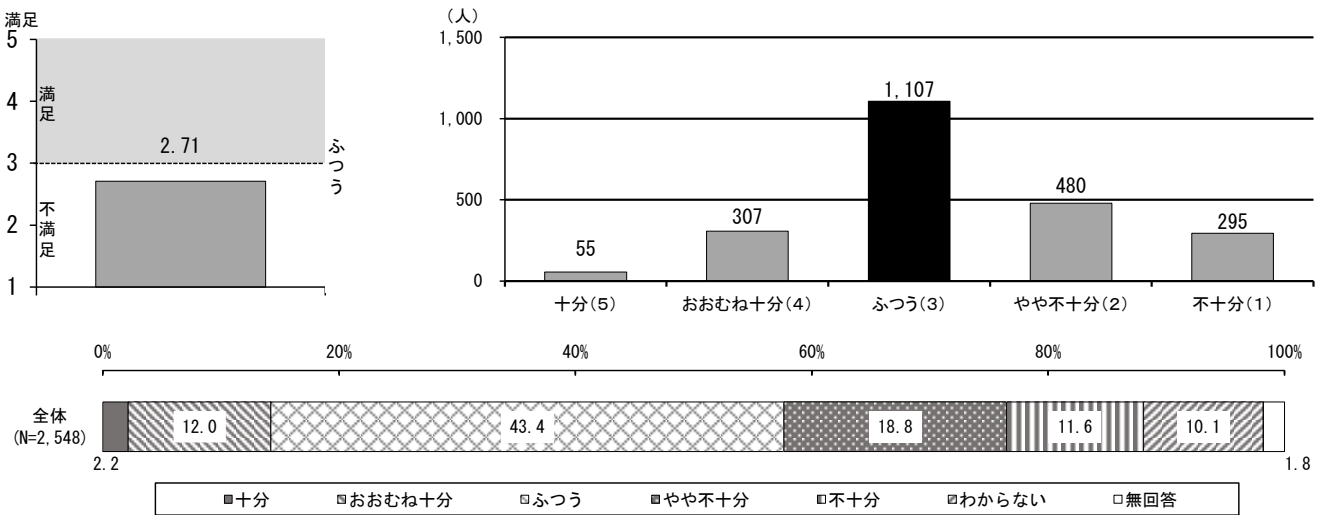
オ 県土の骨格を形成する道路ネットワークの設備

問 1-21 地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。

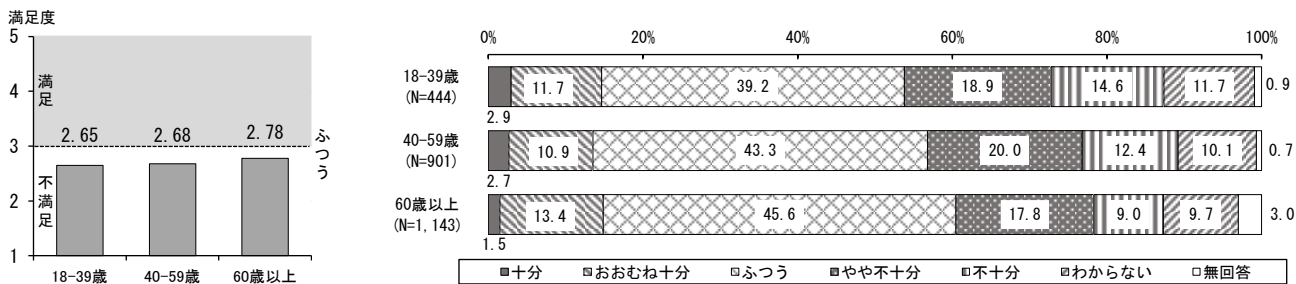
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.71で、「ふつう」の3より0.29低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.2%、「ふつう」は43.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は30.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は57.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.78で最も高く、不満を感じていない人の割合は60.5%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.65で最も低く、不満を感じていない人の割合は53.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した775人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、153人(19.7%)から回答があった。

回答の一部

- 高速道の整備で状況は変わってくると思うが、他県に比べて道路網の整備に遅れがあると思う。(女性/70歳以上/鹿角地域)
- ネットワーク以前に、劣化した既存の道路を直す方が先だと思う。(女性/60歳代/秋田地域)
- 自分が住んでいるところでは、主要都市にスムーズに向かう道路がなく、遠回りしないといけない所もあり不便を感じる。(男性/40歳代/由利地域)

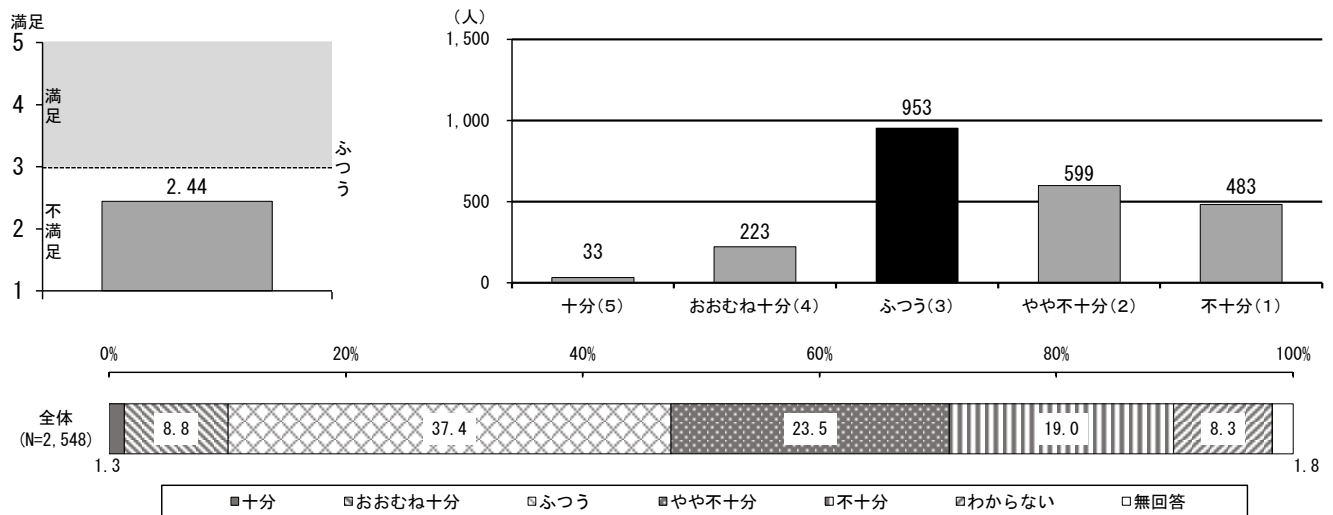
カ 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

問 1-22 鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。

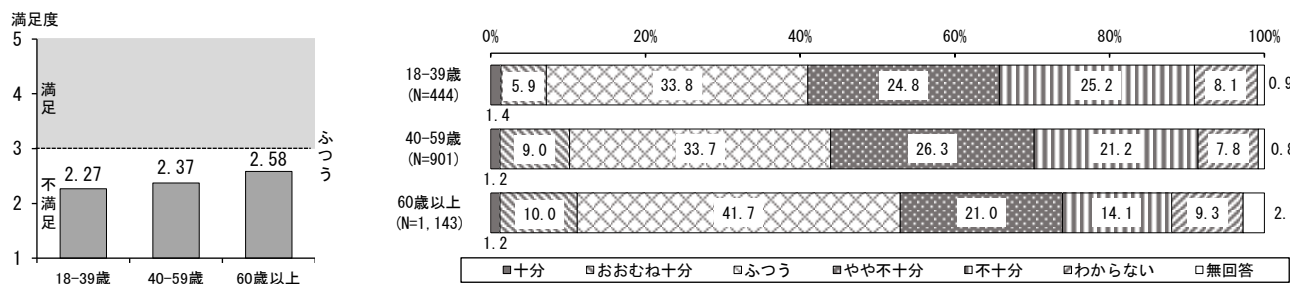
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.44で、「ふつう」の3より0.56低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は10.1%、「ふつう」は37.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は42.5%であった。また、不満を感じていない人の割合は47.5%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.58で最も高く、不満を感じていない人の割合は52.9%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.27で最も低く、不満を感じていない人の割合は41.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,082人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、247人(22.8%)から回答があった。

回答の一部

- 利便性の高い交通ネットワークとなると、まだまだ不十分では。秋田市内、各地のスポットなどに直接アクセスできるような交通手段があれば良い。(女性/30歳代/由利地域)
- 利便性の高さの基準が不明であるが、新幹線を例にとっても東京→青森より時間が掛かることで、観光客やビジネスは秋田が遠のくような気がする。(男性/60歳代/仙北地域)
- フル規格新幹線、奥羽新幹線は必要。自然災害時の交通手段として重要、東北新幹線不通のたび思う。(男性/40歳代/秋田地域)

(5) 戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略について

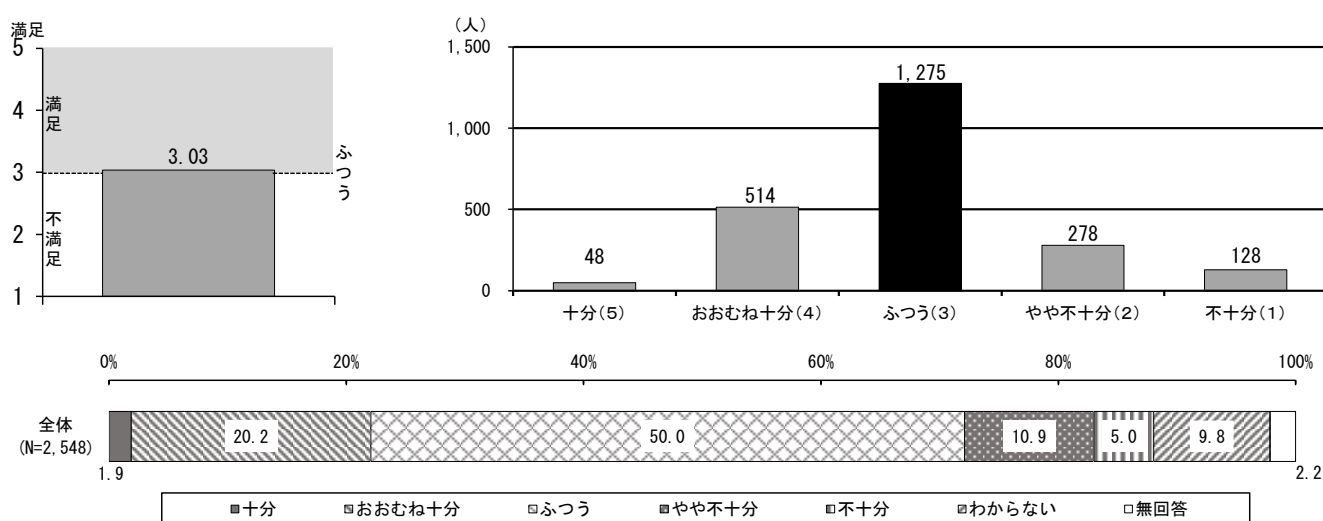
ア 健康寿命日本一への挑戦

問 1-23 食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。

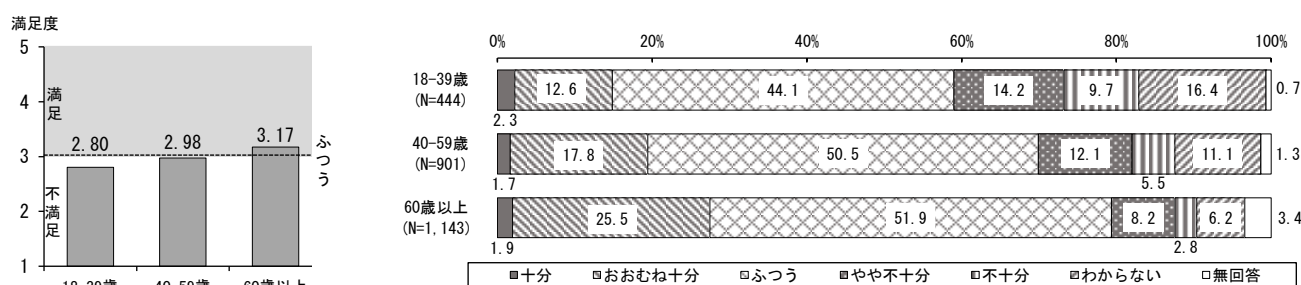
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.03で、「ふつう」の3より0.03高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は22.1%、「ふつう」は50.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は15.9%であった。また、不満を感じていない人の割合は72.1%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は3.17で最も高く、不満を感じていない人の割合は79.3%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.80で最も低く、不満を感じていない人の割合は59.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した406人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、80人(19.7%)から回答があった。

回答の一部

- 健康づくりについてもっとアピールするべきだと思う。減塩音頭も浸透している感じがしない。(女性/20歳代/秋田地域)
- たばこは吸う人は吸うので止めようがないが、CMや広告でアピールし続けるのは効果があると思う。(女性/30歳代/秋田地域)
- 各種統計で、秋田県人の健康データが悪いことが明らかです。塩分摂取量・摂取カロリー・運動量・喫煙・飲酒等、行政からの発信が足りないと思います。(男性/50歳代/山本地域)

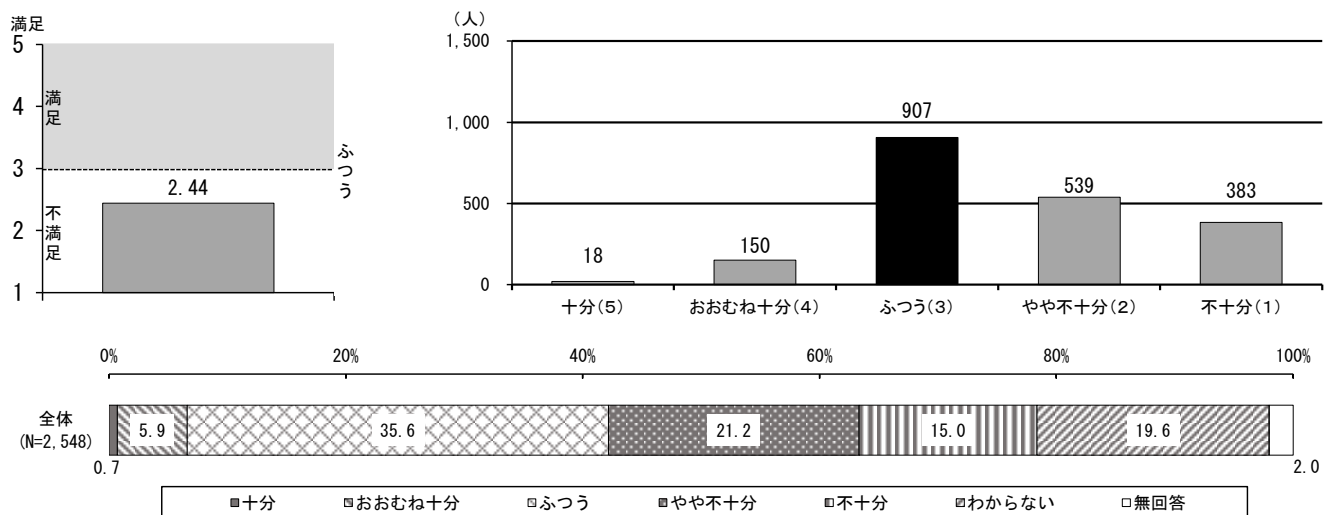
イ 心の健康づくりと自殺予防対策

問 1-24 誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。

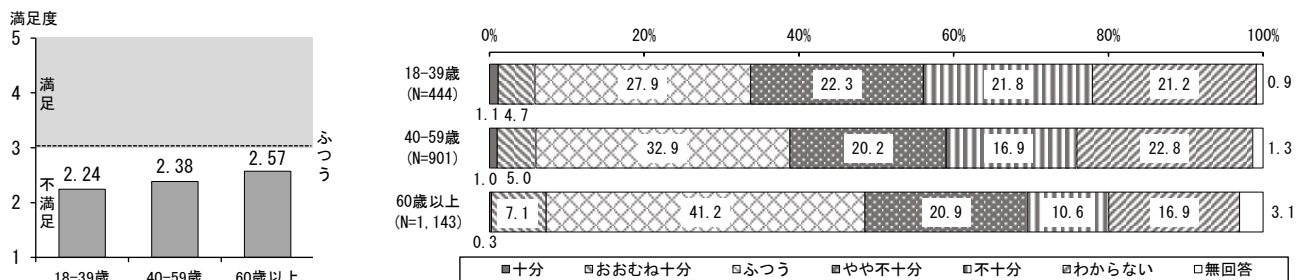
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.44で、「ふつう」の3より0.56低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.6%、「ふつう」は35.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は36.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は42.2%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.57で最も高く、不満を感じていない人の割合は48.6%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.24で最も低く、不満を感じていない人の割合は33.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した922人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、206人(22.3%)から回答があった。

回答の一部

- 心の病気が恥ずかしいものと思われるような風土がある。病院の手前で気軽に相談できる環境について、もっと周知すべき。(男性/40歳代/北秋田地域)
- 本当に自殺を考えている人は誰かに相談なんてしません。その考えに行きつく前の段階で気づき、手を差し伸べる努力をしてほしい。(女性/10歳代/山本地域)
- 相談にたどりつけない人をどう見つけるのか。働き盛りの人の相談しやすい環境ができていない。(女性/30歳代/秋田地域)

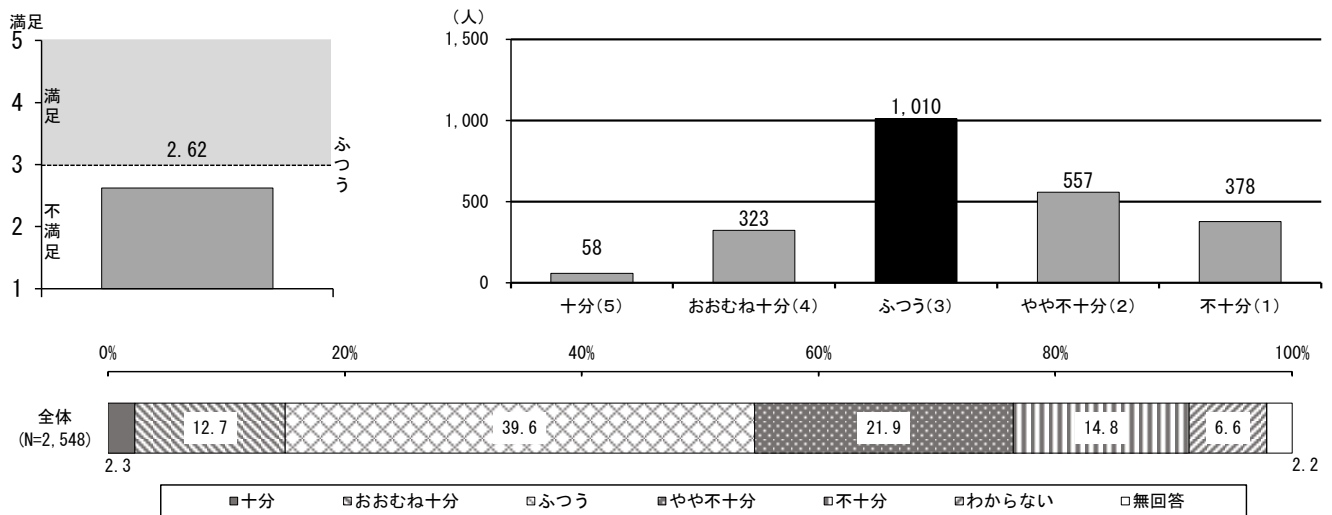
ウ 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備

問 1-25 どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。

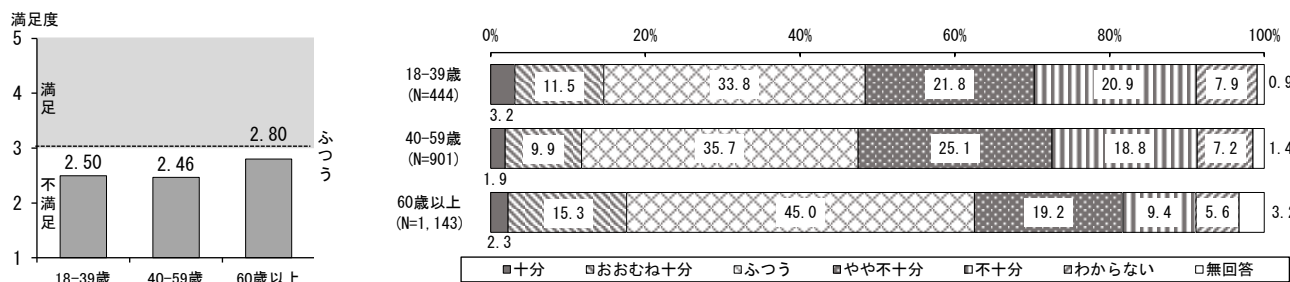
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.62で、「ふつう」の3より0.38低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.0%、「ふつう」は39.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は36.7%であった。また、不満を感じていない人の割合は54.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.80で最も高く、不満を感じていない人の割合は62.6%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.46で最も低く、不満を感じていない人の割合は47.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した935人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、238人(25.5%)から回答があった。

回答の一部

- 地域格差を感じる。医療サービスを受けることが困難な地域もあると思う。(男性/40歳代/由利地域)
- 救急搬送の際、病院まで30分以上かかる集落がかなり多い。街中よりもそういった集落に高齢者が多いので、病院が遠い地域で緊急時にもっと安心できる体制を検討していただきたい。(男性/40歳代/由利地域)
- 町村では病院や診療所が少なく、医師が不足していると思われる。遠隔医療などに本格的に力を入れるべきだと思う。(男性/20歳代/秋田地域)

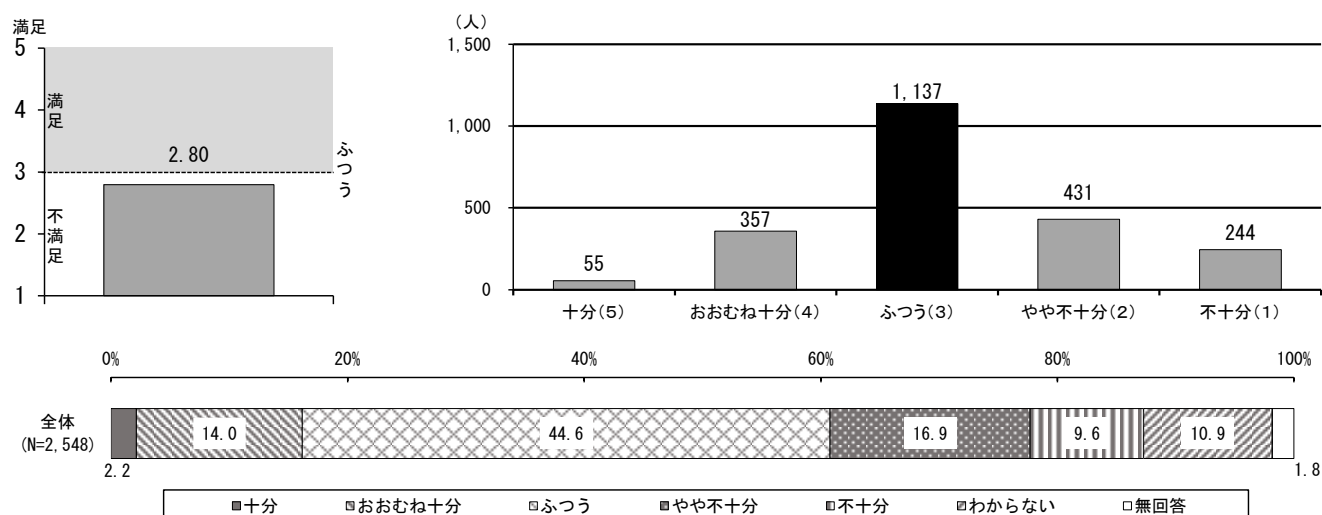
エ 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実

問 1-26 高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。

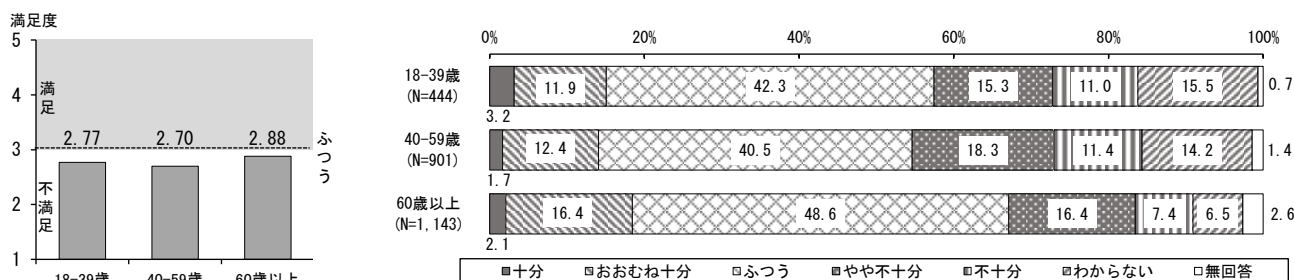
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.80で、「ふつう」の3より0.20低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.2%、「ふつう」は44.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は26.5%であった。また、不満を感じていない人の割合は60.8%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.88で最も高く、不満を感じていない人の割合は67.1%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.70で最も低く、不満を感じていない人の割合は54.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した675人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、152人(22.5%)から回答があった。

回答の一部

- 介護職員不足がある。今、特養では自立支援介護というものに取り組んでおり、特養に入所した方を歩けるようにしたり、認知症状を改善させたりしている。そういう取組を行っている施設があることをもっと発信して、介護という大変だ、排泄介助ばかりというイメージの脱却を図れるようにしてほしい。(女性/40歳代/山本地域)
- 介護福祉サービスの従事者は明らかに足りていない。福祉職に就きたいと思わせる施策が必要。秋田県の福祉職は全国と比較しても収入が低い。(男性/30歳代/秋田地域)
- 障害者に対応したサービス提供が少なく受けたいサービスが十分に受けられない。(女性/30歳代/仙北地域)

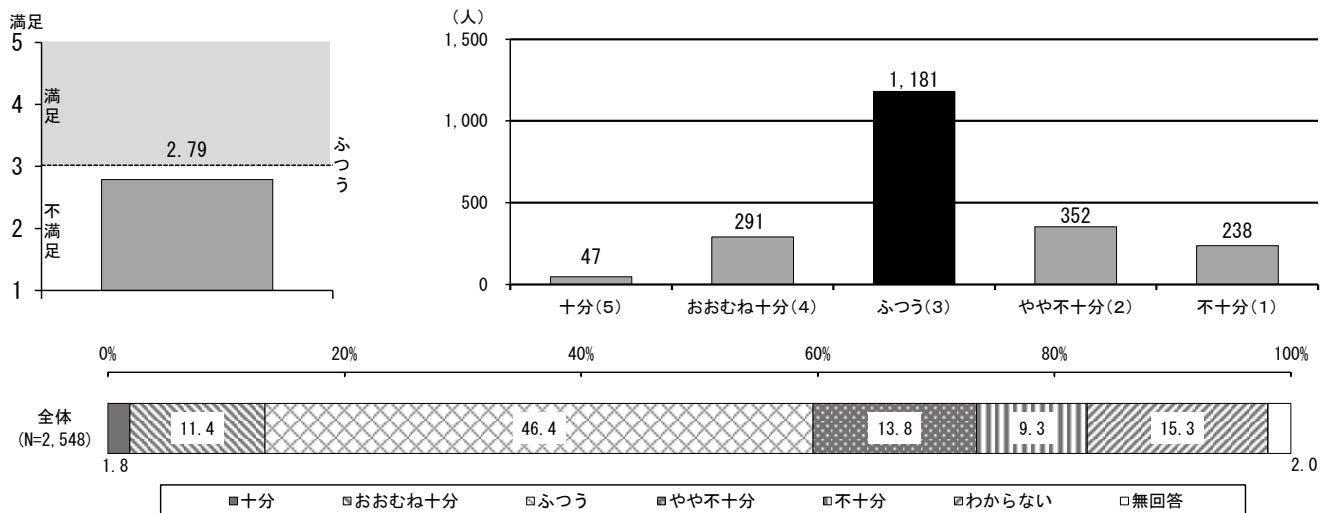
オ 次代を担う子どもの育成

問 1-27 全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。

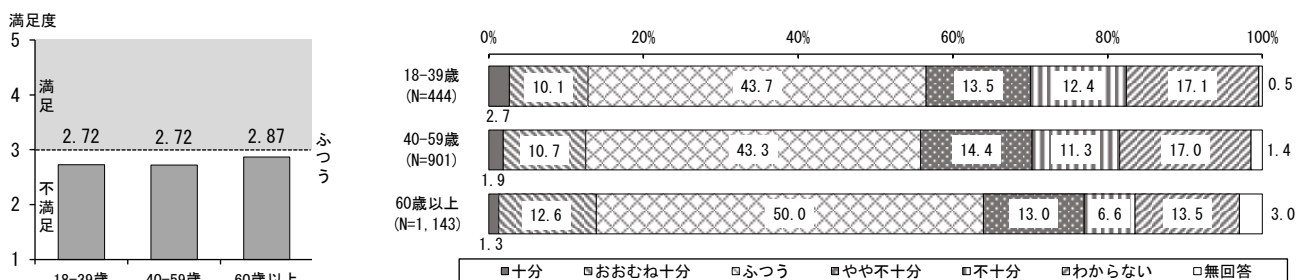
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.79で、「ふつう」の3より0.21低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.2%、「ふつう」は46.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は23.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は59.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は2.87で最も高く、不満を感じていない人の割合は63.9%であった。一方、「18～39歳」と「40～59歳」の満足度はともに2.72で、不満を感じていない人の割合はそれぞれ56.5%、55.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した590人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、103人(17.5%)から回答があった。

回答の一部

- お金がない家の子どもや虐待、ヤングケアラーの子どもたちをもっと支援して救ってほしい。(女性/20歳代/秋田地域)
- 里親制度に対する意識が低い。少子化に対してもっと関心を持つ必要がある。(女性/60歳代/鹿角地域)
- 医療ニーズの高い子どもへの保育サービスが不十分。健常児同様に保育を受けられるようになり、地域で子どもを育てていける県になってほしい。(女性/30歳代/仙北地域)

(6) 戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略について

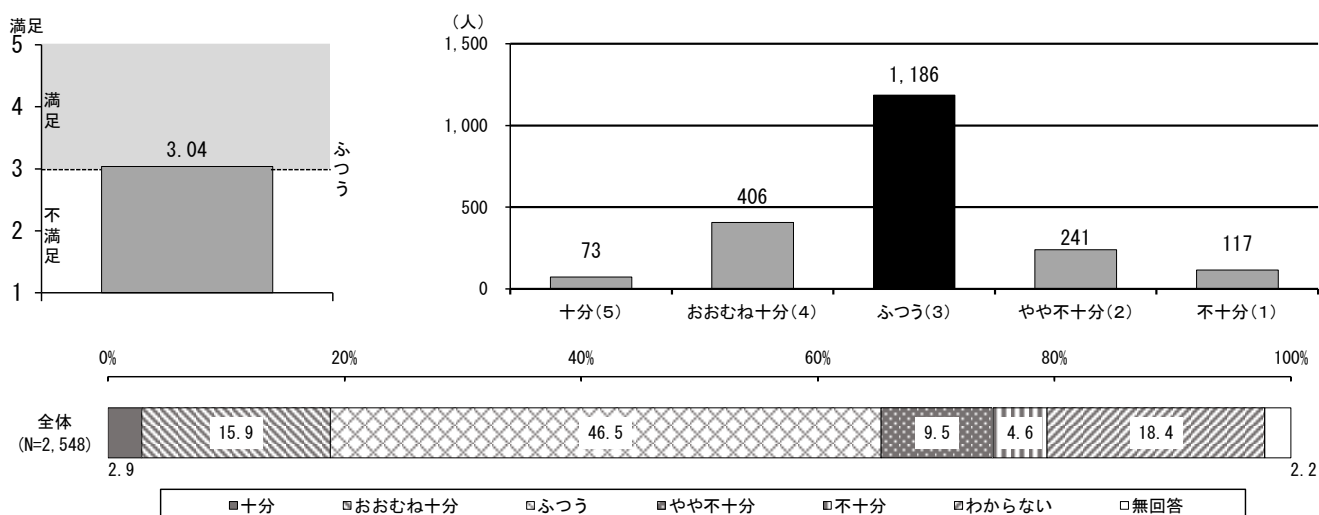
ア 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成

問 1-28 学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。

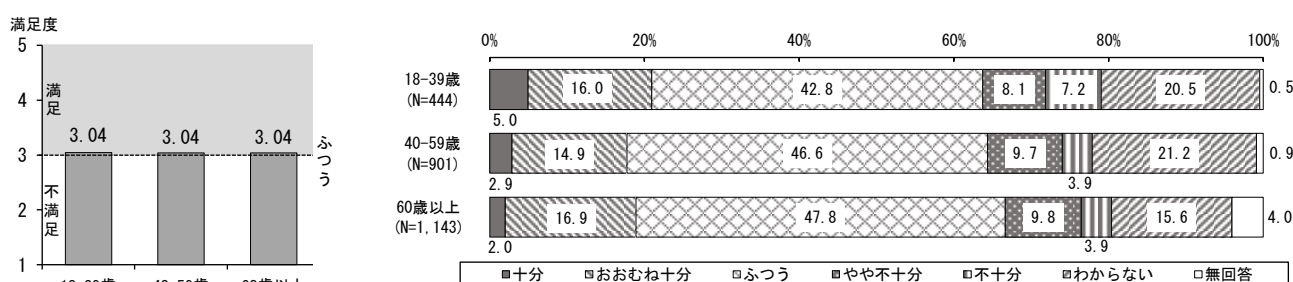
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.04で、「ふつう」の3より0.04高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.8%、「ふつう」は46.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は65.3%であった。



年代別では、全年代において満足度は3.04で、不満を感じていない人の割合は「18～39歳」が63.8%、「40～59歳」が64.4%、「60歳以上」が66.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した358人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、70人(19.6%)から回答があった。

回答の一部

- 地域の伝統や秋田らしさを学ぶ機会をもっと増やしてほしい。(男性/60歳代/秋田地域)
- 高校教育の場は重要だと思う。特に、農業高校や工業高校など学んだことを将来地元で生かせるように導いてほしい。(女性/60歳代/仙北地域)
- 県外から見た秋田県が魅力的というのを耳にしたり、秋田県の名物を楽しんでいる方が一定数おり、そういう方の意見をSNSなどで収集し、取組に生かせるように検討してみても良いと思う。(男性/20歳代/秋田地域)

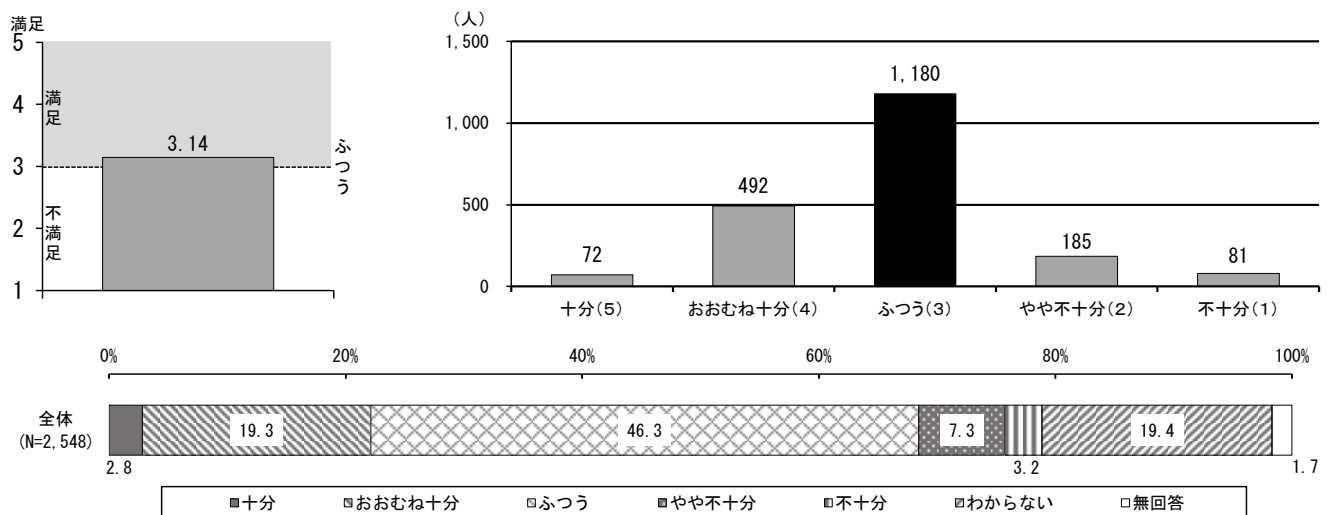
イ 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着

問 1-29 学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。

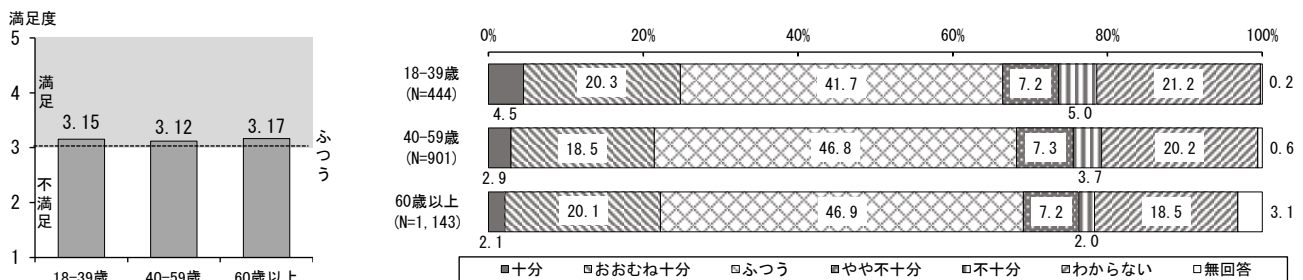
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.14で、「ふつう」の3より0.14高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は22.1%、「ふつう」は46.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は10.5%であった。また、不満を感じていない人の割合は68.4%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は3.17で最も高く、不満を感じていない人の割合は69.1%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.12で最も低く、不満を感じていない人の割合は68.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した266人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、37人(13.9%)から回答があった。

回答の一部

- 学ぶことの意味、それを伝えられるような学校教育であってほしい。(女性/70歳以上/秋田地域)
- 「意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力」は別に、学校教育に限って育まれるものではないのでは。もっと多様性を持って育む必要があるように思う。(男性/50歳代/秋田地域)
- 今の子どもたちは、自ら判断・行動というのは、かなり限られた状況でしか発揮しないような気がしています。(男性/30歳代/山本地域)

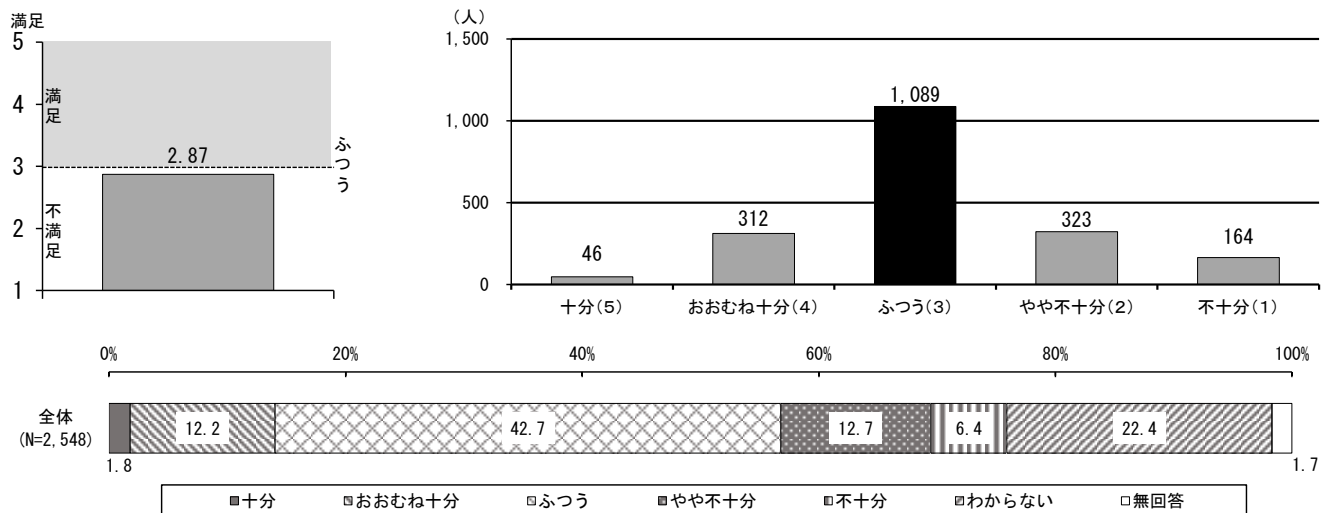
ウ 世界で活躍できるグローバル人材の育成

問 1-30 学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。

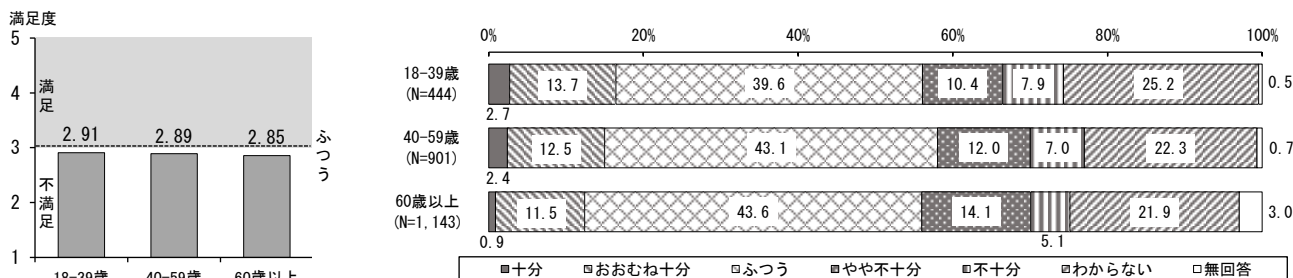
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.87で、「ふつう」の3より0.13低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.0%、「ふつう」は42.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は19.1%であった。また、不満を感じていない人の割合は56.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は2.91で最も高く、不満を感じていない人の割合は56.0%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.85で最も低く、不満を感じていない人の割合は56.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した487人に理由や県を求める取組を自由記述形式で質問したところ、61人(12.5%)から回答があった。

回答の一部

- 実践的に使えるような対策が取り組まれていると思う。(女性/20歳代/仙北地域)
- 英語教育だけでなく、外国人と話せる授業を増やし、楽しさを教えてほしい。(男性/70歳以上/秋田地域)
- まだまだこれから。でも過剰に英語学習を押しつけないでほしい。ちゃんと日本語教育を徹底してから英語学習をしてほしい。(男性/20歳代/秋田地域)

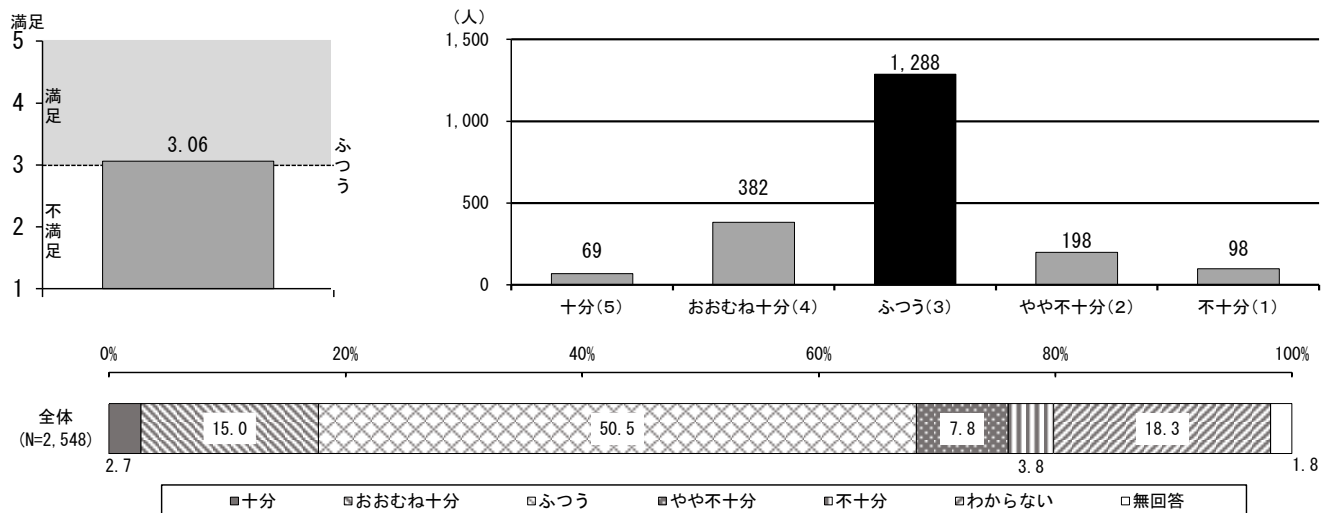
エ 豊かな人間性と健やかな体の育成

問 1-31 学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。

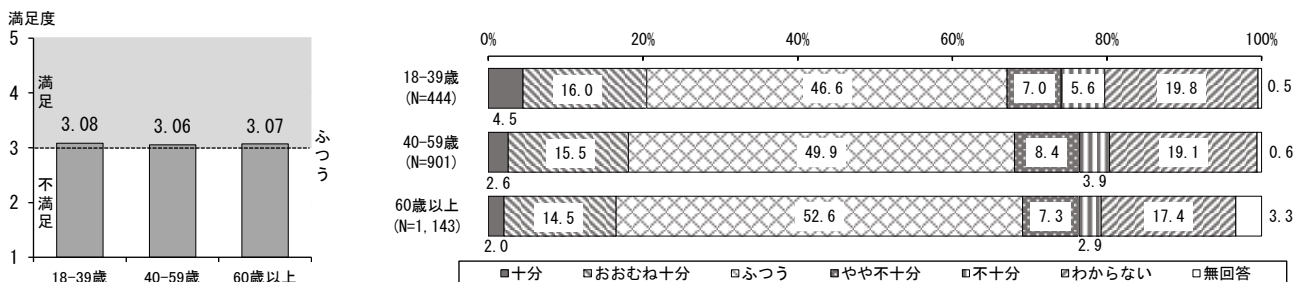
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.06で、「ふつう」の3より0.06高かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は17.7%、「ふつう」は50.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は11.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は68.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.08で最も高く、不満を感じていない人の割合は67.1%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.06で最も低く、不満を感じていない人の割合は68.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した296人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、46人(15.5%)から回答があった。

回答の一部

- 他人への思いやりが育まれていないから、いじめ等が減っていないんだと思う。健やかな体は育まれていると思う。(男性/20歳代/秋田地域)
- 学校教育だけで思いやりを育てることは不可能であり、家庭との連携を取りつつ育むしか方法はないと思う。家庭環境を考慮した上で、教師がどう関わるかが一番重要な課題だと思う。教師をサポートする体制の整備を急ぐべきと考える。(女性/60歳代/秋田地域)
- いじめ問題が減少できていない。また、障害を抱えた生徒やマイノリティーとの交流等により、知識だけではなく、体験的な教育が必要と感じる。(女性/50歳代/由利地域)

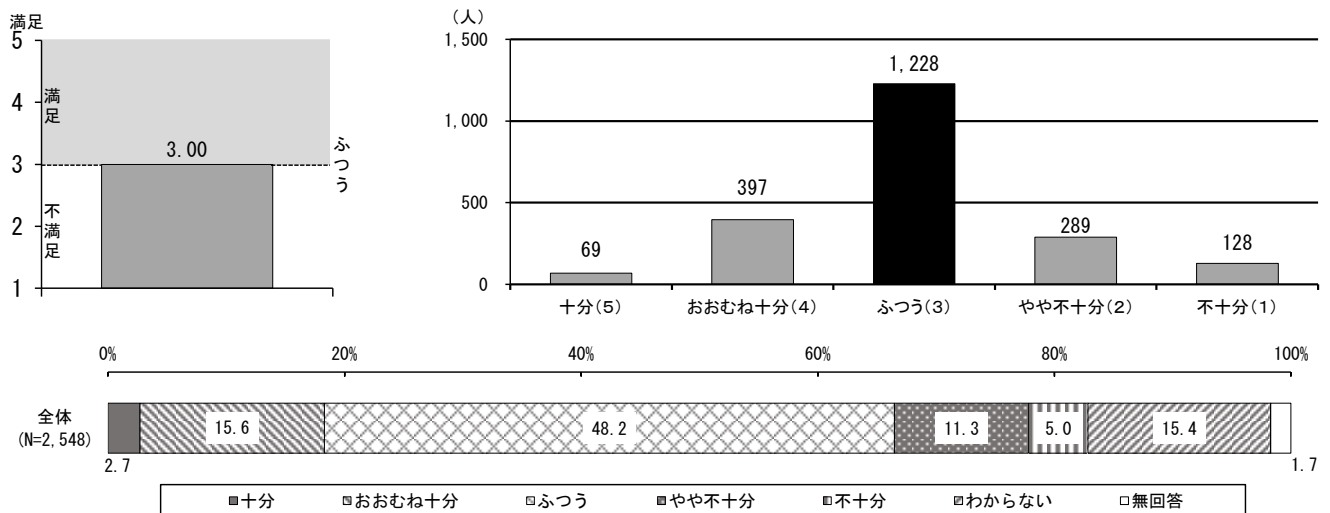
オ 子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり

問 1-32 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。

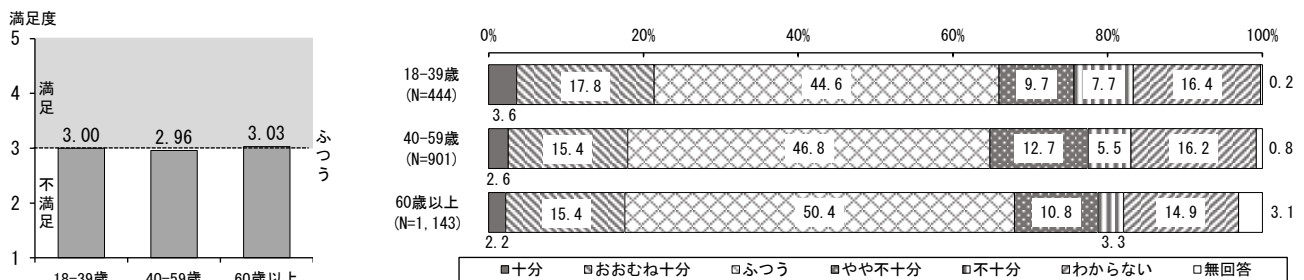
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.00で、「ふつう」の3と同じであった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.3%、「ふつう」は48.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.3%であった。また、不満を感じていない人の割合は66.5%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度は3.03で最も高く、不満を感じていない人の割合は68.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.96で最も低く、不満を感じていない人の割合は64.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した417人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、70人(16.8%)から回答があった。

回答の一部

- 学校・地域それぞれの組織づくりは進んでいると思うが、保護者・家庭との結びつきが弱い。(男性/40歳代/由利地域)
- そもそも子どもがいない家庭では、地域にいる子どもたちを知らないことが多いと思う。(女性/60歳代/秋田地域)
- 地域の関係性が薄くなり、近所の子どもに声をかけることも、不審者と思われればと遠慮してしまう状況なので、できていないと判断。(女性/50歳代/北秋田地域)

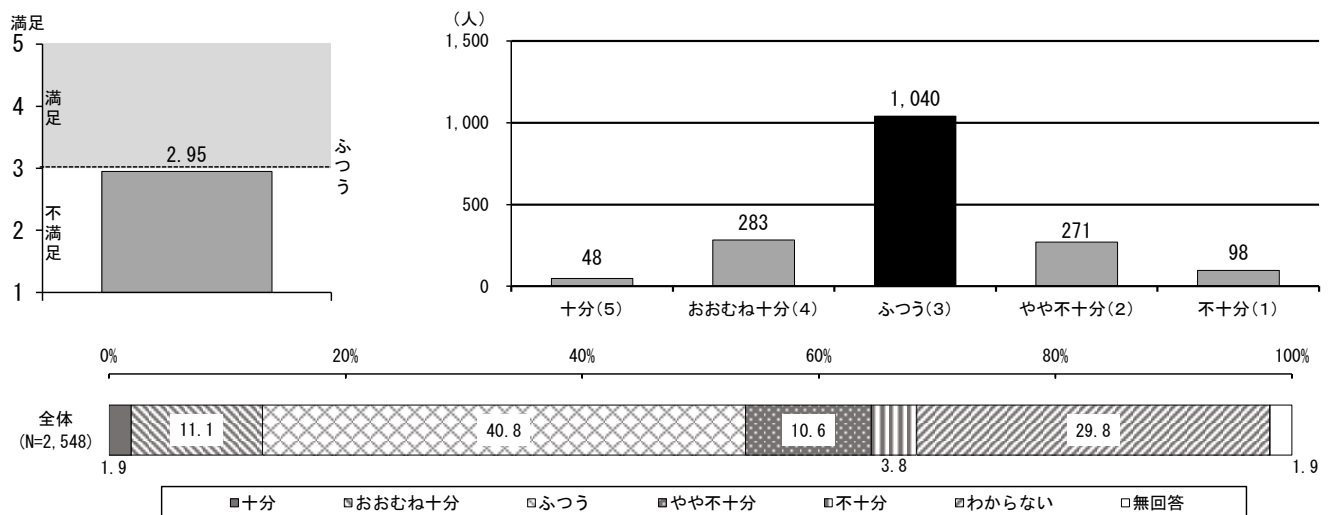
カ 地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興

問 1-33 県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。

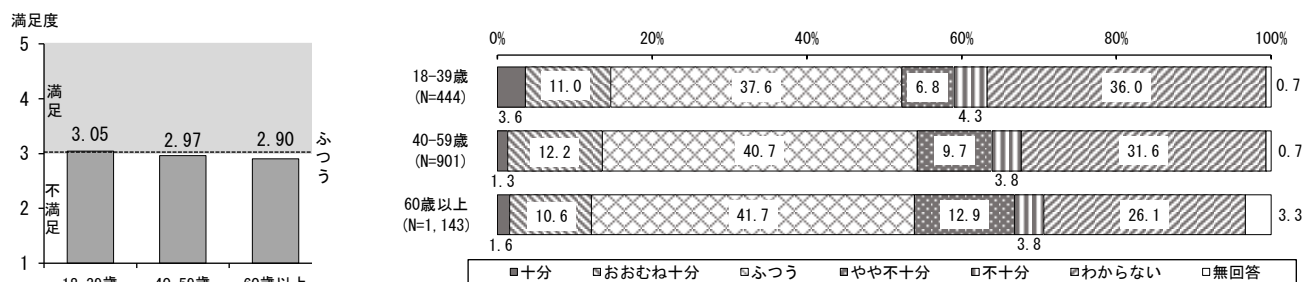
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.95で、「ふつう」の3より0.05低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.0%、「ふつう」は40.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.4%であった。また、不満を感じていない人の割合は53.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.05で最も高く、不満を感じていない人の割合は52.2%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.90で最も低く、不満を感じていない人の割合は53.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した369人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、50人(13.6%)から回答があった。

回答の一部

- 大学の研究成果が地域の活性化とどのようにつながっているのかが不明。アピール不足。(男性/40歳代/由利地域)
- 行われていると思いますが、なかなか知る機会がないので、分かりません。(女性/40歳代/秋田地域)
- 県外に学生が流れないような大学や学部、専門学校があれば良いのでは。(男性/50歳代/仙北地域)

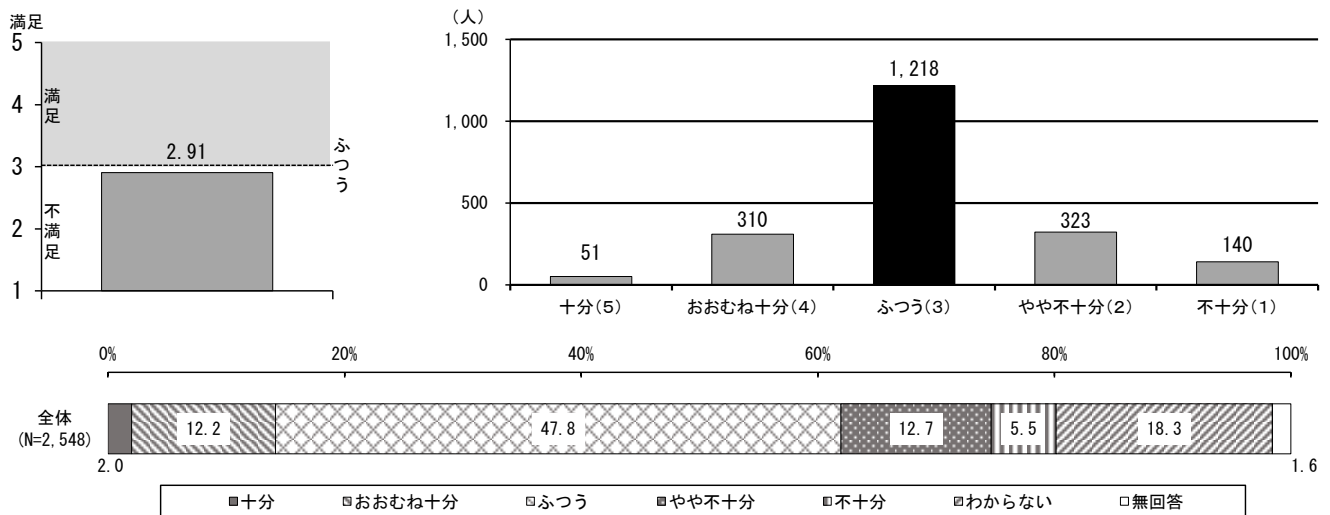
キ 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供

問 1-34 県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。

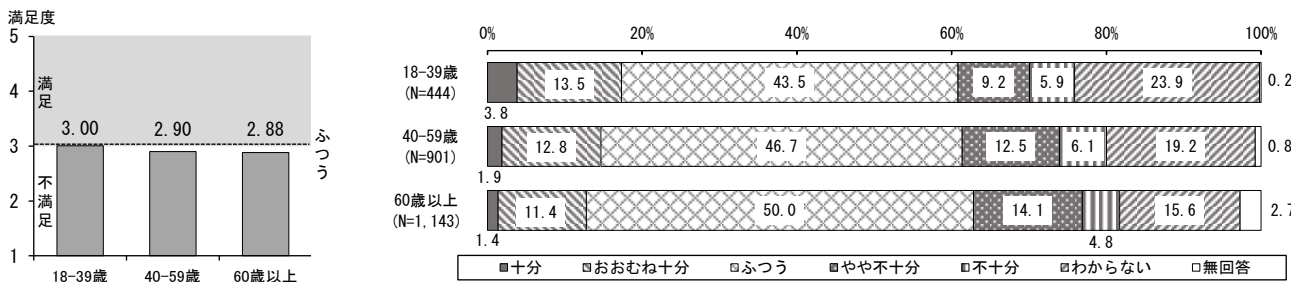
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.91で、「ふつう」の3より0.09低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.2%、「ふつう」は47.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は18.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は62.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度は3.00で最も高く、不満を感じていない人の割合は60.8%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.88で最も低く、不満を感じていない人の割合は62.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した463人に理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、66人(14.3%)から回答があった。

回答の一部

- 中学以降は勉学に力を入れる代わりに文化に触れる機会が減ったが、小学校までは多く文化に触れられていた。小さいうちから文化に触れられる活動が全県に広まると良いと思う。(女性/10歳代/仙北地域)
- コロナ感染予防から遠くに行けないため、市町村単位で芸術文化に携われるものがあれば良い。県北には美術館もない。(女性/50歳代/北秋田地域)
- ミルハスの活用と、秋田市以外でも多様な芸術文化に触れる機会を増えることを期待しています。(男性/40歳代/仙北地域)

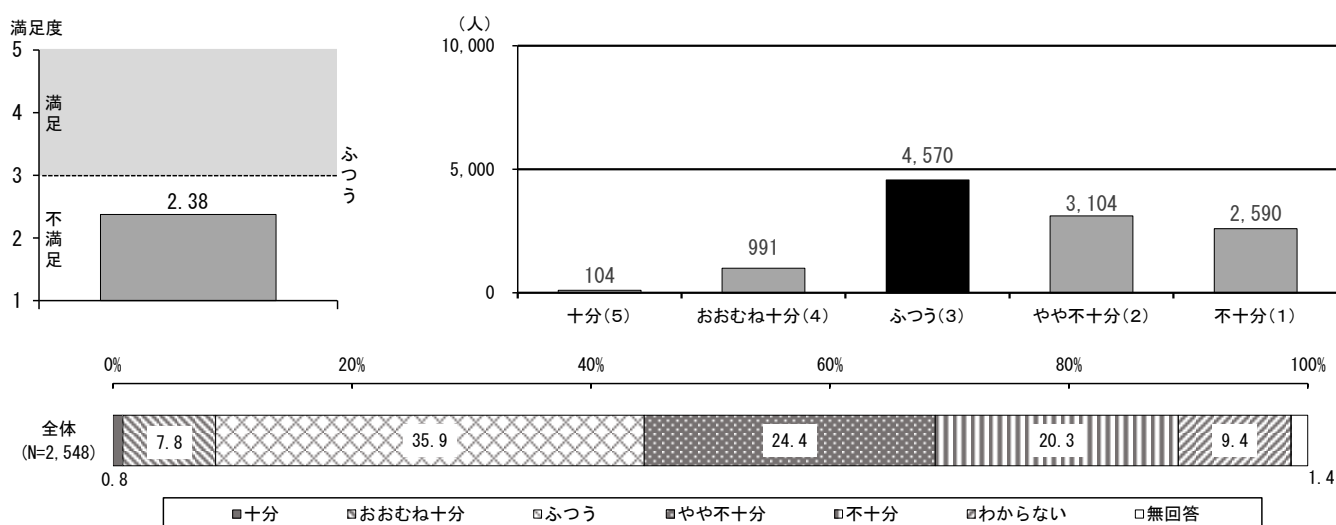
2 （参考）各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値

「1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度」について、戦略ごとに平均値を計算した結果は次のとおりである。

戦略1 秋田の未来につながるふさと定着回帰戦略（問 1-1～問 1-5）

5段階評価の満足度の平均値は2.38で、「ふつう」の3より0.62低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

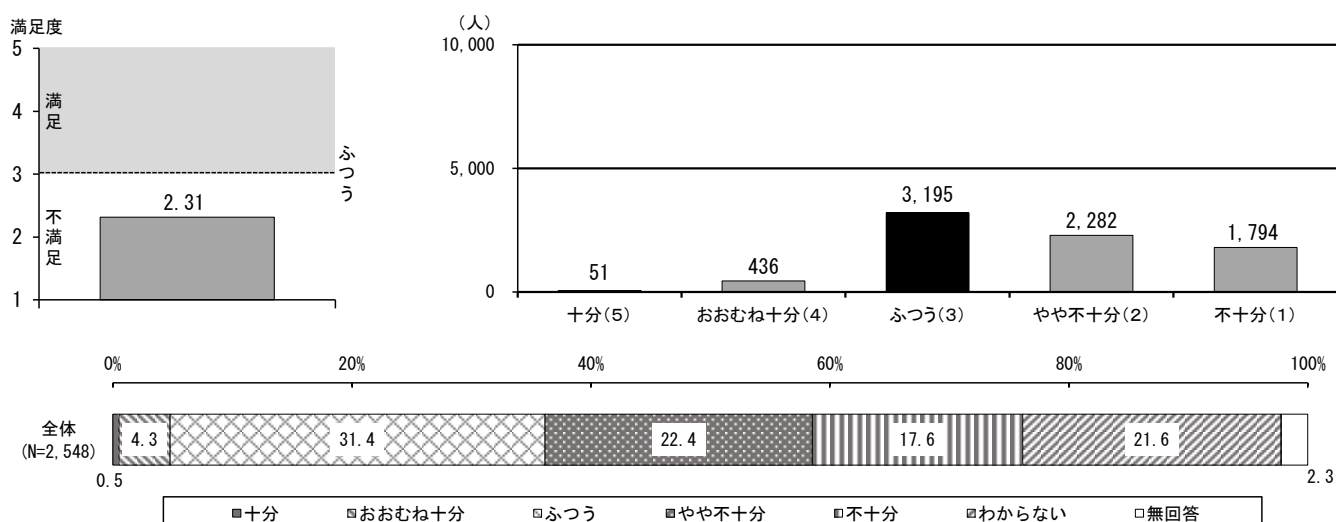
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は8.6%、「ふつう」は35.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は44.7%であった。不満を感じていない人の割合は44.5%であった。



戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略（問 1-6～問 1-9）

5段階評価の満足度の平均値は2.31で、「ふつう」の3より0.69低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

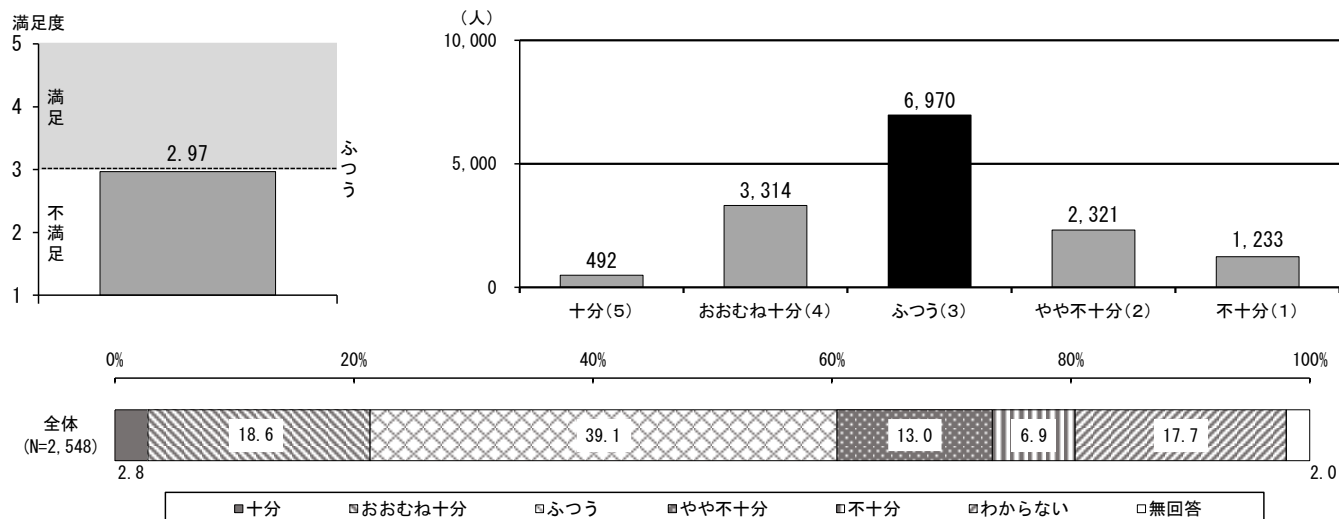
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は4.8%、「ふつう」は31.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.0%であった。また、不満を感じていない人の割合は36.2%であった。



戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略（問1-10～問1-16）

5段階評価の満足度の平均値は2.97で、「ふつう」の3より0.03低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

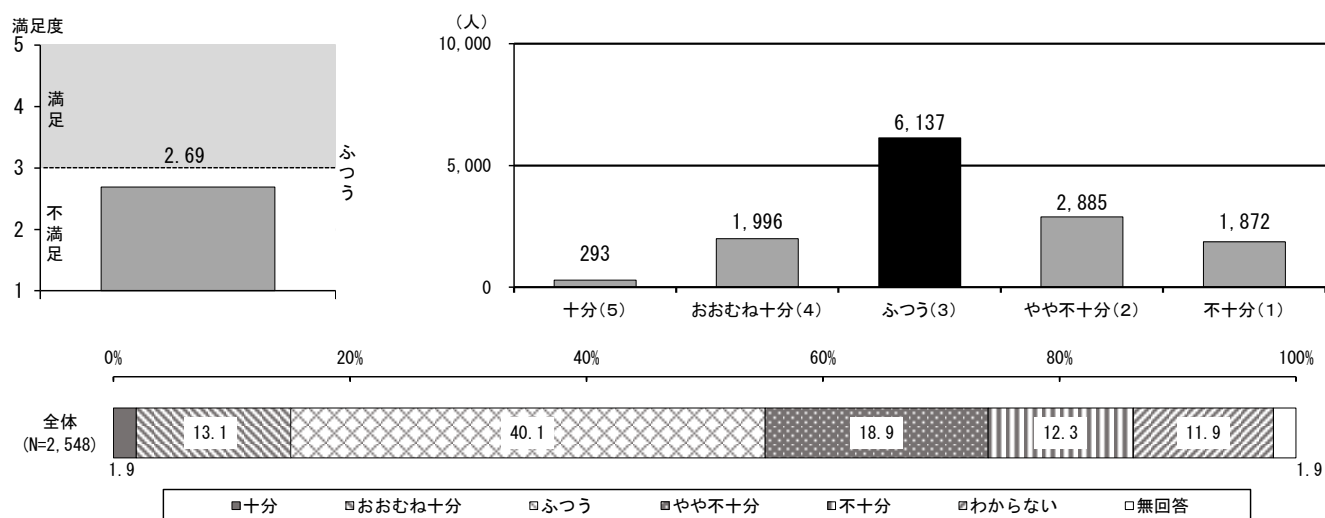
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は21.4%、「ふつう」は39.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は19.9%であった。また、不満を感じていない人の割合は60.5%であった。



戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・ものの交流拡大戦略（問1-17～問1-22）

5段階評価の満足度の平均値は2.69で、「ふつう」の3より0.31低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

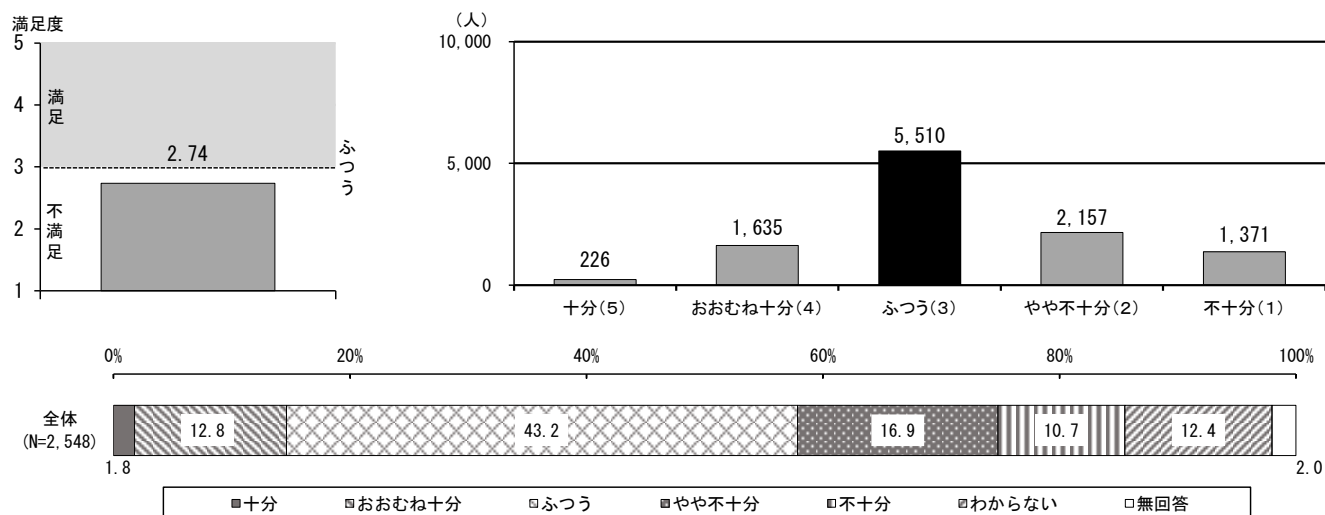
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.0%、「ふつう」は40.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は31.2%であった。また、不満を感じていない人の割合は55.1%であった。



戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略（問1-23～問1-27）

5段階評価の満足度の平均値は2.74で、「ふつう」の3より0.26低かった。回答は「ふつう」が最も多かった。

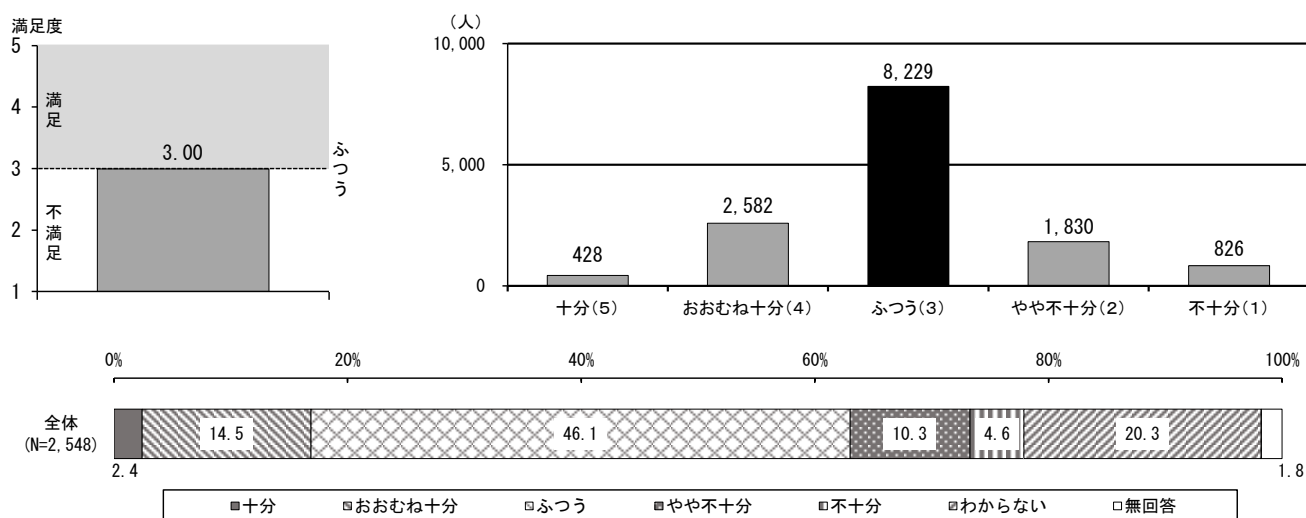
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.6%、「ふつう」は43.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は27.6%であった。また、不満を感じていない人の割合は57.8%であった。



戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略（問1-28～問1-34）

5段階評価の満足度の平均値は3.00で、「ふつう」の3と同じであった。回答は「ふつう」が最も多かった。

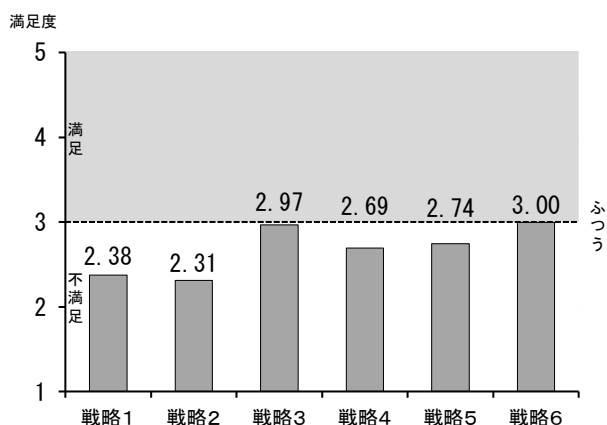
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.9%、「ふつう」は46.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.9%であった。また、不満を感じていない人の割合は63.0%であった。



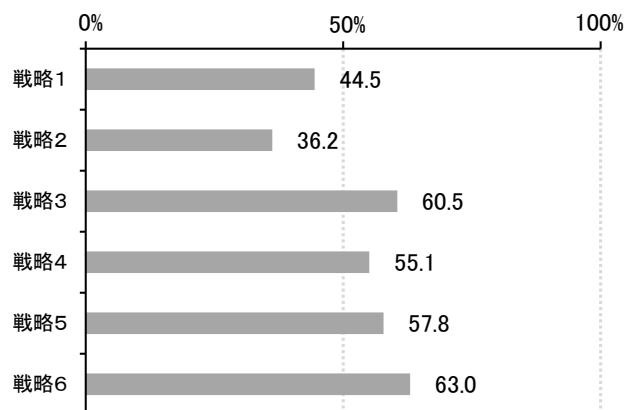
満足度の平均値が最も高かったのは「戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略」の 3.00（不満を感じていない人の割合は 63.0%）、次いで「戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略」の 2.97（同 60.5%）であった。

一方、満足度の平均値が最も低かったのは、「戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略」の 2.31（同 36.2%）であった。

〔満足度の平均〕



〔不満を感じていない人の割合の平均値〕



※「満足度の平均値」「不満を感じていない人の割合の平均値」とも、戦略を構成する施策の回答結果の平均値であり、各戦略そのものの満足度、割合ではない。